

## ■資料－1 大学改革推進等補助金の実績報告書(令和元年度)

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<p>本補助事業は、事業協働地域(広島広域都市圏及び尾道市)の課題である人口流出を観光資源の活用によって改善することを目指し、全学共通系科目及び学部専門科目を体系的に再編成し、地域の課題解決に資する能力を養成する教育カリキュラムを実施することで、「地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付き、地域の発展に貢献する人材」を育成することを目的としている。</p> <p>本年度の目的は、主にこれまで実施してきた各事業項目の内容を着実に継続させるとともに、本年度以降の展開に向けての検証と準備を行うことである。</p> <p>まず、教育カリキュラム等については、地域貢献特定プログラムの科目として新たに「卒業論文」、「卒業研究」、「卒業制作」を各学部の専門科目として開講するとともに、平成 28 年度にCOC+参加校間で締結した地域志向科目の単位互換に関する協定に基づき、単位互換制度を引き続き実施する。また、インターンシップについては、平成 30 年度本学のキャリア教育科目の見直しを行い、「キャリアデザイン i、ii」を新たに開講するとともに、「キャリアサポートベーシック A、B」(令和 2 年度開講)の開講準備を進める。また、事業協働機関である中国経済連合会と協力し、参加大学と連携して低学年を対象とする短期のインターンシップ、教職員向け企業訪問を引き続き実施するなど、学生のみならず、教職員も含めて、地域企業への関心を高める取組の充実を図る。</p> <p>観光関連データベースについては、事業協働機関の自治体、企業等から収集した観光関連データ及び本学情報科学研究科教員が収集した SNS データの登録件数が約 60 万件に達し、昨年度データの登録を概ね完了し協働協議会の参加機関への閲覧を開始したことから、当該機関における活用を促進する。</p> <p>教育研究事業については、学内特定研究の実施、宮島に開設した教育研究施設を活用した活動とともに、アートプロジェクトを引き続き実施する。また、参加校による協働研究事業を進めるとともに、観光をテーマにした研究・活動の合同発表会や参加自治体におけるサテライト講座を引き続き実施する。</p> <p>事業の運営について、COC+事業協働地域協議会、COC+教育プログラム開発委員会等を開催するとともに、ホームページやニュースレターの発行等により、本事業の協働地域内での一層の浸透や事業推進の円滑化を図るとともに、本年度が COC+事業の最終年度であることから、COC+事業期間における事業の実施状況について、まとめの作業を実施する。また、次年度以降の継続に向けて取組内容の整理を行う。</p>	<p>本事業の令和元年度の取り組みは、各事業項目を安定的、発展的に実施していくとともに、補助期間終了後の継続に向けて、検証や準備を行うことである。</p> <p>地域に貢献する人材の育成を目指す教育カリキュラムである地域貢献特定プログラムの全 23 科目を実施し、延べ 1,256 名の履修があった。</p> <p>参加校間の単位互換協定に基づき、地域志向科目 22 科目の互換を行い、12 名の履修があった。</p> <p>本学の全教職員を対象にしたFD・SD 研修を 1 月に1回実施した。3 月に予定していた 2 回目は新型コロナウイルスの影響により延期した。</p> <p>本学のキャリア関連科目の見直しを行い(平成 31 年度)、令和元年度から開講した。参加企業・自治体へのインターンシップについては、本学では 77 名が参加した。また、地元経営者パネル討論会を開催し、83 名の学生、教職員が参加した。</p> <p>寄付講座として、「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を実施(3 年目)し、11 名が受講した。</p> <p>観光関連データベースについては、約 60 万件以上のコンテンツを登録し、引き続き地域課題演習や観光情報学での演習素材として利活用を行った。また、事業協働機関への閲覧を行った。</p> <p>「COC+特色研究」について 3 件の研究テーマを採択し実施した。「社会連携プロジェクト」について 6 件の事業を採択し実施した。また、学生による地域貢献事業「市大生チャレンジ事業」を 5 件実施した。</p> <p>「広島市立大学COC+宮島教育研究施設」(通称、サテライトハウス宮島)について、アートプロジェクトや市民向け講座などの活用を進めた。</p> <p>芸術学部を中心としたアートプロジェクトについては、新たな地域を追加して 6 地域において 7 つのプロジェクトを実施し、芸術学部の学生・教員約 220 名が参加した。参加校 3 大学とも協働し、市民の参加者数は合計 6,130 人となった。</p> <p>参加校による地域志向の教育研究等のプログラムを、協働または単独で 8 件実施した。</p> <p>「大学連携による学生の観光研究・活動発表会」を 12 月に実施し、6 大学から学生 56 名、教員は 19 名が参加。観光に関する 10 の研究・活動成果を発表した。</p> <p>高校生の地域内進学を促進するサテライト講座を柳井市において 3 回開講し、高校の生徒・保護者等 44 名の参加があった。</p> <p>広報について、ニュースレターを 2 回(合併号)発行したほか、大学広報誌や、専用ホームページでの情報提供を随時行った。</p> <p>事業協働協議会を令和 2 年 1 月に開催し、23 機関の参加により事業の実施報告と補助期間終了後の方針について意見交換を行った。</p> <p>COC+最終フォーラムを令和 2 年 1 月に実施し、事業協働機関及び観光事業関係者など 90 名の参加があった。</p> <p>事業推進体制として、担当特任教授等 6 名を継続雇用した。</p> <p>COC+外部評価委員会を 7 月に開催し、平成 30 年度事業について「A 計画を上回った実績を挙げている」との評価を受けた。令和元年度事業の評価は 3 月に実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響により延期した。</p> <p>補助期間終了後の方針について検討を行い、継続計画を作成した。</p> <p>検討した事業 20 項目のうち、拡充して継続するものが 5 項目、維持して継続するものが 10 項目、終了するものが 5 項目としており、主要な事業の大部分を継続する内容とした。</p>

<p>① 4月～3月 平成27年度に策定したCOC+教育プログラム(地域貢献特定プログラム)の「広島を知る」科目の「広島の観光学」、「ひろしま論」、「広島の産業と技術」、「創作と人間」、「NPO論」、「地域再生論入門」、「広島を感じる」科目の「地域課題演習」、「広島を問う」科目の「地域再生論」、「非営利組織論Ⅰ、Ⅱ」、「交通論」、「スポーツ文化経営論」、「フィールドワーク論」、「経営史」、「観光情報学」、「インターンシップ」「アートマネジメント概論」、「造形応用研究Ⅰ、Ⅱ」、「地域実践演習」を引き続き実施。本年度は、「地域課題演習」の対象年次を1～2年次に広げる(前年度まで2年次対象)とともに、新たに「広島に挑戦する」科目の「卒業論文」、「卒業研究」、「卒業制作」を開講</p> <p>地域貢献特定プログラムにより、「広島を知る」6科目、「広島を感じる」1科目、「広島を問う」16科目の全23科目を実施し、履修者は延べ1,256名となった。 このうち主要7科目による履修後のアンケート結果において、79.9%が「地域への関心度を高めた」と答え、地域志向マインドの醸成に一定の成果が確認できた。 3年次において地域貢献特定プログラムの単位を修得したのは14名となり、4年次において「ひろしま地域リーダー」の認定を受けたのは17名となった。</p>	<p>本COC+の教育カリキュラムである地域貢献特定プログラムは、地域志向科目として「広島を知る」「広島を感じる」「広島を問う」「広島に挑戦する」という4つのステップを、全学共通系科目や専門教育科目において順次学習できるよう編成している。 令和元年度の前後期を通じた実施内容は次のとおり。 「広島を知る」科目では、「地域再生論入門」「広島の産業と技術」「広島の観光学」「ひろしま論」など6科目において、履修者は864名となった。 「広島を感じる」科目では、「地域課題演習」において6つのテーマを実施し、52名が履修して現地での活動や考察を通じて地域の魅力や課題についての理解を深めた。 「広島を問う」科目では、3学部において「地域実践演習」を引き続き開講し、地域の課題解決を目指して合計11名が取り組んだ。このほかの専門教育科目として「地域再生論」や「観光情報学」「アートマネジメント概論」など計16科目を開講し、履修者は340名となった。 以上の23科目に延べ1,256名の履修があり、総合的に地域社会への理解を深めた。 履修後に地域への関心度を聞いたアンケート結果では、関心が「非常に高まった」「高まった」と答えた学生が「地域課題演習」では92.9%、「地域再生論入門」では88.1%となるなど、アンケートを実施した主要7科目の平均では79.9%となり、地域志向マインドの醸成に一定の成果が確認できた。 地域貢献特定プログラムの単位修得者(3年次に演習を含む8単位以上修得)が14名となった。また、すでに地域貢献特定プログラムの単位を修得し4年次において地域に関する卒業論文、研究、制作に取り組んだ17名を「ひろしま地域リーダー」として認定した。</p>
<p>② 4月～3月 平成28年度に参加校間で締結した、地域志向科目の単位互換に関する協定に基づき、単位互換を実施</p> <p>COC+校及び参加校による単位互換協定に基づき、6校から22科目の提供があり、12名が履修した。</p>	<p>COC+単位互換事業について、地域志向科目の提供校は前年度より1校減って6校であったが、提供された科目は4科目増えて全22科目となり、履修者は2名増えて12名となった。 履修科目は広島大学の「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」、広島経済大学の「広島を学ぶ」、広島市立大学の「創作と人間」の3科目であった。</p>
<p>③ 9月・3月 本学の全教職員を対象とした本事業の実施に関するファカルティ・ディベロップメント(FD)として、全学COC+研修会(2回)の開催</p> <p>第1回を令和2年1月10日に実施し、74名の参加・視聴があった。 第2回を令和2年3月18日に予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、令和2年度に延期した。</p>	<p>全学FD・SD研修会の開催により、学内でのCOC+の事業推進状況や地域教育への理解を深めた。参加できなかった教職員に対して、研修の動画が学内Webで常時視聴ができる態勢にしている。 第1回の内容は、「横浜市立大学におけるCOC事業の成果と地域貢献の取組・人材開発」をテーマに、COC事業終了後の地域人材育成や地域貢献センターの取組を通して、公立大学としての地域社会との関わり的重要性について学んだ(講師は横浜市立大学COC事業統括責任者の国際教養学部鈴木伸治教授)。 第2回は、「COC+事業の報告と終了後の継続について」をテーマとして、社会連携センターの國本特任教授が報告をする予定であったが、新型コロナウイルスの影響により延期し、令和2年度の早期に開催することとした。</p>
<p>④ 8月～2月 COC+参加企業・自治体へのインターンシップとともに、中国経済連合会と協力し、参加校と連携して低学年向けインターンシップ及び教職員向け企業訪問を引き続き実施</p> <p>COC+校における事業協働機関へのインターンシップの参加者数は77名であった。事業協働機関である中国経済連合会によるインターンシップ事業(働く魅力を知る企業訪問)に、15社が協力し教職員が地元企業の情報を得るため参加した。 平成29年度入学生への就職意向調査を実施し、地元への就職希望を持つ学生が、入学時の23%から3年次の37%に上昇した。</p>	<p>学生に事業協働機関へのインターンシップの参加を呼びかけ、COC+校における令和元年度の参加学生数は前年度59名から77名に増加した。 事業協働機関である中国経済連合会と協働して平成29年度から企業経営者と学生が懇談を通じて働く魅力を知る事業を行っている。令和元年度は参加企業が15社あり、主に教職員向けの企業情報の収集・訪問を実施した。 また、平成29年度入学生に対して、入学時と3年次に就職意向調査を実施した結果、「広島を中心とした地域で働きたいか」という問いに、入学時は23%が「非常にそう思う」「そう思う」と回答し、3年次には37%が同様に回答した。地元への就職を希望する学生の割合が14ポイント上昇しており、インターンシップや地域志向教育の一定の効果を確認することができた。</p>

<p>⑤ 4月～3月 前年度見直したキャリア教育科目について、「キャリアデザイン i、ii」を新たに実施し、令和元年度入学生の2年次から開講となる「キャリアサポートベーシック A、B」の開講準備を進めるとともに、経営者を招き、学生と意見交換する会を引き続き実施</p> <p>COC+校において平成30年度にキャリア形成支援科目の見直しを行い、低学年の教育を強化したプログラムを令和元年度から実施した。 COC+校において、「地元企業経営者パネル討論会」を開催し、参加企業3社、参加学生・教職員は83名であった。</p>	<p>COC+校においてキャリア形成支援科目の大幅な見直しを行い、低学年時からの、将来の職業選択についての構想や学修、インターンシップ、就職活動への実践的な指導に力点を置いたプログラムを令和元年度からの実施した。 COC+校で実施した「地元企業経営者パネル討論会」に83名の学生・教職員が参加し、学生と企業経営者との活発な意見交換があり、地域での企業経営の意義と課題、求める人材像について理解を深めた。</p>
<p>⑥ 4月～3月 マツダ(株)による寄付講座を芸術学部において引き続き実施</p> <p>「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を実施し、学生11名が受講し、8名が最終作品発表会に臨んだ。</p>	<p>広島が世界に誇れるモノづくりの拠点となる人材育成を目指し、「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を平成29年度に開講した。芸術学部を持つ本学ならではの取り組みであり、3年目となる令和元年度は、専攻を超えて学生11名が実践的な学びや制作を行い、8名が最終作品発表会に臨んだ。学生は地元製造業のトップデザイナーからの厳しい指導を受け、自らのデザインが実社会で受け入れられるための方法論を学んだ。</p>
<p>⑦ 4月～3月 観光関連データベースを「観光情報学」の講義・実習等で引き続き活用 4月～12月 (一社)しまなみジャパンと協働して収集したしまなみ海道サイクリングにおけるGPS位置データ(観光客の行動情報)を利用して音声ガイドアプリによるIoT事業を提案</p> <p>平成30年度末までに観光関連データ60万件以上の登録を完了し、データを地域課題演習や観光情報学での演習・学習や、大学院での研究素材として活用した。 しまなみ海道の観光サイクリストの行動情報収集調査等の結果を踏まえ事業提案を行った。</p>	<p>観光関連データベースは、SNS情報を中心にコンテンツの登録を進め、平成30年度末までに総数60万件以上のデータの登録が完了している。登録した観光関連データの教育研究での利活用を進め、地域課題演習や観光情報学での学習や情報科学研究科での情報解析素材としての実践的な応用研究を行った。 平成30年度に行った、しまなみ海道を訪れる観光サイクリストの行動情報をGPS位置データにより収集する調査や、岩国市での錦帯橋エリアでの観光ガイドシステムの実証実験を踏まえ、スマートフォンの観光音声ガイドアプリの提供により自動的にサイクリストの位置情報を取得する仕組みを、事業協働機関である(一社)しまなみジャパンに提案した。</p>
<p>⑧ 4月～3月 参加校・企業・自治体に対するデータベースの閲覧を引き続き実施。また、次年度以降の運用継続に伴い現在のクラウド運用から学内の新規サーバーへ移行</p> <p>事業協働機関への閲覧を引き続き実施した。 令和元年12月より学内のサーバーへ移行し、継続して教育研究データとして活用を行う体制とした。</p>	<p>平成30年度に観光関連データベースの利用マニュアルや利用規定を策定し、事業協働機関向けのユーザID/Passを配布して閲覧を開始し、令和元年度も引き続き協働機関からの照会等に対応した。 データベースを事業終了後も継続して教育研究活動に活用するため、学内の情報科学部サーバーに移行し、管理を引き継いだ。</p>
<p>⑨ 4月～3月 学内特色研究費(大学資金)「COC+事業の推進に寄与する研究費」を公募し研究を実施するとともに、学内事業(大学資金)「社会連携プロジェクト」において「COC+関連プロジェクト」を公募しプロジェクトを実施</p> <p>「COC+特色研究」について3件の研究テーマを採択し、「社会連携プロジェクト」について6件の事業を採択し、それぞれ実施した。 また、学生による地域貢献事業「市大生チャレンジ事業」を5件実施した。</p>	<p>学内資金により、次のとおり地域に関わる研究や社会連携・貢献活動を実施した。 「COC+特色研究」は、「地酒の文化的価値の評価とマーケティングの効果検証」、「基町高層アパートの建築とコミュニティの文化社会学的検証」、「アートプロジェクトの実践研究」の3件。 「社会連携プロジェクト」は、「COC+観光分野における政策形成人材開発プロジェクト」、「広島水辺の活性化プロジェクト」「地域資源と伝統技術を活用した芸術教育プログラムの構築」など6件。 「市大生チャレンジ事業」は、「宮島ろくろ発信プロジェクト」、「とびしま海道のグルメ旅情報発信」など5件。 学生のチャレンジ事業だけでなく特色研究や社会連携プロジェクトにも教員とともに学生が参加し、積極的な現場活動により地域理解を深めている。</p>
<p>⑩ 4月～3月 平成28年度に廿日市市宮島に開設した広島市立大学COC+宮島教育研究施設(通称「サテライトハウス宮島」)を拠点とした活動と管理運営</p> <p>宮島における教育研究拠点として、参加校の利用も含め、芸術制作・展示、市民講座、フィールドワーク等の活用を行った。</p>	<p>廿日市市宮島町の歴史のある町家建築を一部改装し、COC+校と参加校の学生・教員が宮島での教育研究活動を行う施設として「広島市立大学COC+宮島教育研究施設(通称、サテライトハウス宮島)」を平成28年度に開設し、活用を継続した。令和元年度の主な活用状況は次のとおり。 アートプロジェクト(宮島ものづくり産業復興)の制作、現地学習、市民向け講座、その他大学の地域教育活動の拠点として活用。</p>

<p>⑪ 4月～12月 アートプロジェクトを広島市中心部、廿日市市宮島、尾道市、柳井市において引き続き実施。新たに呉市、東広島市で実施するとともに、基町と廿日市市宮島を相互に連動・融合したプロジェクトを実施。また、広島市沿岸部・中心部(太田川)を活用したプロジェクトを新たに実施</p> <p>6地域において7つのアートプロジェクトを実施し、芸術学部の学生・教員約220名が参加した。市民参加者数は合計6,130人となった。 このうち、COC+を締めくくる事業として開催した「feel セトウチ in モトマチ展」では、基町地区に新たな展示スペースを開設し、宮島をはじめとした瀬戸内での制作活動の成果を発表した。 また、太田川を活用した新しい観光の取組を、地域課題演習等を通じて実施した。</p>	<p>「広島ニュートラベル」のテーマの下に、瀬戸内海や都市部、中山間地の各地域において、アート活動により人をいざない交流を進めることをコンセプトに、芸術学部が参加校や地域と協働しながら、作品制作・展示・ワークショップ、地域活動等を実施した。新たな地域として呉市、東広島市を加えた6地域で行った。 実施した7つのプロジェクトの概要(テーマ/地域/内容/専攻)は以下のとおり。 ①宮島ものづくり産業復興プロジェクト/廿日市市/後継者不足の宮島ろくろの技術習得/漆造形 ②尾道プロジェクト/尾道市/空き家問題を学習し現代アートの展示スペースとして空き家を活用/現代表現(尾道市立大学と協働) ③野呂山・御手洗プロジェクト/呉市/絵画作品を通じて呉市の魅力を表現する/油絵専攻 ④柳井プロジェクト/柳井市/柳井地区の観光資源を学習し、金魚ちょうちんの新しい彩色デザインを提案し祭りに合わせて展示/立体造形 ⑤基町プロジェクト/広島市/高齢化した都心の住宅団地の活性化、コミュニティデザイン/芸術学部共同(広島修道大学、安田女子大学と協働) ⑥広島仏壇プロジェクト/東広島市/地場産業である広島仏壇の伝統技術の継承/漆造形 ⑦feel セトウチ in モトマチ展/広島市/基町地区の空き店舗のリノベーションにより新たに作品の展示・販売実験スペースを開設し、COC+アートプロジェクトで制作した宮島や瀬戸内での作品群を展示販売/芸術学部共同 以上のプロジェクト全体を通して、学生・教員約220名が参加し、展示会や交流等に参加した住民の数は6,130人となった。 また、太田川をSUPボードでめぐる活動を実施し(地域課題演習、社会連携プロジェクト)、水都広島の水の水面や水辺を観光的に活用する提案を行うとともに、広島市で初めてとなるイベント「リバーシティフェスティバル」の開催を支援した。</p>
<p>⑫ 4月～12月 参加校による協働研究事業を実施</p> <p>参加校が地域やCOC+校と協働して、学生が地域活動に参加する教育研究プログラムを8件実施した。</p>	<p>参加校の学部構成や教育方針のもとに、COC+の対象地域において、多くの学生が地域活動に参加する教育研究事業を実施し、地域志向マインドの醸成に努めた。 以下、校名/地域/テーマ/実施内容。 ①広島大学/呉市/コンテンツツーリズムを活用した地域活性化/観光客アンケート、行政施策調査、企業への経済効果測定 ②尾道市立大学/尾道市/アートプロジェクト(空き家再生)の実施/空き家を活用した地域デザインと展示(広島市立大学と協働) ③広島経済大学/廿日市市、呉市等/学生による観光資源等の再発見と発信/宮島の魅力を発信、朝鮮通信使をテーマに日韓学生交流、瀬戸内海の戦跡地をマップにしたダークツーリズムの提案 ④広島工業大学/廿日市市/宮島土曜講座/宮島のまちづくり、観光、地域課題解決等の市民講座の開催(広島市立大学と協働) ⑤広島国際大学/安芸太田町・呉市/中山間地域と島しょ部との交流による地域活性化プロジェクト/中山間地域での住民サロンによる地域支援 ⑥広島修道大学/広島市、北広島町、岩国市/基町プロジェクト「もとまちカフェ」・地域と連携した教育/基町地区の内外をつなぐ交流活動(広島市立大学と協働)、PBL「ひろしま未来協創プロジェクト」の実施 ⑦安田女子大学/北広島町、広島市/筏津プロジェクト、グローバルキッチンプロジェクト/地域の健康促進の場をつくる食文化交流(広島市立大学と協働) ⑧広島商船高等専門学校/大崎上島町/高齢者健康調査/地域住民の健康調査やスポーツ交流による地域支援</p>
<p>⑬ 12月 観光に関する学生の研究・活動発表会を実施</p> <p>COC+校と参加校の6大学による合同事業として、「大学連携による学生の観光研究・活動発表会」を、令和元年12月に実施。参加学生55名、教員等26名。観光に関する10の研究・活動成果を発表し、交流を深めた。</p>	<p>学生の観光に関する学習・研究意欲を高め、地域志向マインドやネットワークの醸成を図るため、6大学が合同で実施した。観光に関連する学生の研究や活動に関する広島地域では唯一の大学間交流事業となっている。 開催日は令和元年12月7日。会場は広島市西区民文化センター。参加した学生は56名、教員は19名。 発表されたテーマは10件。内容は地域資源と観光について3テーマ、観光と経済効果について3テーマ、宮島のまちづくりについて4テーマであり、各大学とも、地域への関わり方や分析、考察の方法に特徴があり、多彩なプレゼンテーションが行われた。 参加学生のアンケートとして、85%が「他大学との交流により学習・研究上の刺激を受けた」、96%が「広島地域の関心を高めた」と回答した。発表内容の記録集を作成した。 また、この事業の令和2年度以降の取り扱いについて協議を行い、継続して実施することで合意した。</p>

<p>⑭ 9月～12月 参加自治体と協働して山口県柳井市でサテライト講座を実施</p> <p>柳井広域圏1市4町の高校生を対象に、地域内への進学と卒業後の地域定着を図るため、サテライト公開講座を3回実施した。参加者は生徒、教員、保護者等44名。</p>	<p>事業協働地域の若い世代の地元への定着を図る対策の一つとして、高校生の地域内への進学を促し、ひいては地域内での就職につながる事業として、サテライト講座を柳井市と協働して実施した。対象は柳井広域圏1市4町の7校の高校生と保護者で、参加者は44名。講座は3回開催し、広島市立大学の教員が担当した(内容は、まちの魅力をつくるデザイン、食の多様性の認識、コンピュータによる生命現象の解析)。</p> <p>併せて、広島地域に所在する各大学の説明・紹介を行い、地域内進学を促した。アンケートでは、84%が講座の内容を良かったと回答し、100%が大学選択の参考になったと答えた。</p>
<p>⑮ 4～3月 事業広報のためニュースレターを発行(2回) 4～3月 平成27年度に開設したホームページの更新</p> <p>ニュースレター2回分を合併号として発行した(1月)。 大学広報誌や専用ホームページにより随時広報に努めた。</p>	<p>ニュースレターは、第11号と第12号の合併号を、A4版8ページで令和2年1月に発行し、配布した(3000部)。5年間の実績を取りまとめた内容とし、各事業項目のデータや写真、プロジェクトマップなどで構成した成果パンフレットとして編集した。</p> <p>また、事業活動の紹介として大学広報誌やパブリシティを活用するとともに、COC+の専用ホームページを随時更新し情報提供に努めた。</p>
<p>⑯ 1月 COC+事業協働協議会の開催(1回) 1月～3月 「平成28年度～令和元年度アートプロジェクト冊子」及び「平成27年度～令和元年度COC+事業報告書」の作成</p> <p>事業協働協議会の会議を令和2年1月に開催し、23機関から45名の参加があり、令和元年度事業を中心に5年間の実績について報告し、事業終了後の方針について承認した。 アートプロジェクト報告書及び事業報告書を作成した。</p>	<p>事業協働協議会の会議を、令和2年1月31日に広島市総合福祉会館において開催した。</p> <p>協議内容は、COC+事業実績について、及び、COC+事業終了後の方針についてであり、事業の総括的な成果報告と補助期間終了後の取組方針について説明を行い、協議の上、承認された。</p> <p>参加は23の協働機関から45名であった。 平成28年度から令和元年度までのアートプロジェクトの報告書、及び平成27年度から令和元年度までの事業報告書を作成した。</p>
<p>⑰ 1月 参加校・企業・自治体に呼びかけCOC+フォーラムを開催(1回)</p> <p>「COC+最終フォーラム」を令和2年1月に開催し、自治体、企業、観光事業関係者中心に90名の参加があった。</p>	<p>COC+最終フォーラムを、令和2年1月31日に広島市総合福祉センターにおいて開催した。</p> <p>テーマは「広島圏域で観光のダイナミズムをどう受け止めるか」とし、今後のインバウンド観光をめぐって、都市空間の魅力化や滞在強化などについて、広島の観光学担当の特任教授や岐阜大学COC+参加校である名古屋学院大学教授、広島市担当局長を交えた議論を行った。併せてCOC+の観光関連の活動成果と観光行動のデータ分析の報告を行った。</p> <p>参加者は自治体、観光事業関係者、大学、一般市民など90名。アンケートでは、96%の参加者が満足度が高いと回答した。</p>
<p>⑱ 4月～3月 事業の調整、実施、進行管理にあたるCOC+を担当する教員6名を継続雇用</p> <p>前年度に引き続き、COC+推進コーディネーター等6名を雇用した。</p>	<p>平成30年度に引き続いて、COC+推進コーディネーター(特任教授)1名、教育研究担当特任教授1名、事業協働地域調整担当特任准教授1名、教育研究担当特任助教1名、観光関連データベース担当特任助教1名、アートプロジェクト担当特任助教1名を雇用し、全体で6名の体制で事業を推進した。</p>
<p>⑲ 6月 COC+外部評価委員会を開催し、平成30年度事業の評価と評価報告書を作成 3月 COC+外部評価委員会を開催し、令和元年度事業の評価と評価報告書を作成</p> <p>COC+外部評価委員会を令和元年7月に開催し、平成30年度事業の実施状況について、「A計画を上回った実績を挙げている」との評価を受けた。併せて平成30年度の事業報告書を作成した。 令和元年度事業の外部評価は、令和2年3月に委員会の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により令和2年度に延期した。</p>	<p>COC+外部評価委員会(委員長は神戸市外国語大学名誉教授船山仲他氏ほか委員4名)を、令和元年7月5日に開催し、平成30年度事業の評価を行った。その結果は、『各事業項目を安定的、発展的に実施するとともに、事業の最終年度を翌年に控えて、将来的な継続性を意識した内容となっている。特に、事業の重要な柱である「教育カリキュラムの整備・推進」において、地域貢献特定プログラムに一定の成果を上げるとともに、キャリア教育の見直しに着手したことは、本COC+事業の目的である地域に貢献する人材の育成に向けた着実な前進と、事業期間終了後の継続への基礎固めが行えたものと評価する』として、総合評価は「A 計画を上回った実績を挙げている」とされた。</p> <p>また、平成30年度の事業報告書を作成し、外部評価委員会に提出した。 令和元年度事業の外部評価については、令和2年3月30日に委員会の開催を準備していたが、新型コロナウイルスの影響により延期し、令和2年度の早期に実施する。</p>

㊦ 4月～3月 次年度以降の継続に向けた検討

補助期間終了後の方針について検討を行い、継続計画を作成した。  
検討した事業 20 項目のうち、拡充して継続するもの 5 項目、維持して継続するもの 10 項目、終了すもの(必然的に終えるものを含む)5 項目としており、主要な事業の大部分を継続する。

補助期間終了後の継続計画を次のとおり作成した。  
(記号の◎は拡充継続、○は維持継続、■は終了を示す。)  
以下、事業項目/記号/説明。  
【地域志向教育カリキュラム】  
(1)地域貢献特定プログラム/◎/科目構成を見直し単位修得認定者の増加を図る。新たに「地域志向教育特別委員会」を設置し検討する。  
(2)単位互換/○/科目の大部分について(一社)教育ネットワーク中国の運営する単位互換事業に移行する。  
(3)寄付講座/◎/現在 1 講座を 2 講座にする。  
(4)研修会/○/地域志向教育等の FD・SD 研修として実施する。  
【観光関連データベース】  
(5)データの活用/○/データの管理を情報科学部に移管し教育研究に活用する。  
【アートプロジェクト等の教育研究事業】  
(6)アートプロジェクト/◎/芸術学部において「地域展開型芸術プロジェクト」として担当教員等を 2 名配置し実践的な教育を推進する。  
(7)基町プロジェクト/◎/施設の運営を継続し、全学的な活用を目指して地域課題に取り組む。新たに教員 1 名を配置する。  
(8)サテライトハウス宮島/■/運営を終了する。  
(9)参加校の教育研究事業/○/参加 8 校のうち 4 校が事業を継続する。  
(10)大学連携による観光研究・活動発表会/○/参加大学・教員の持ち回りにより開催を継続する。  
(11)特色研究等/○/特色研究、社会連携プロジェクト、市大生チャレンジ事業のいずれも、地域に関する事業について学内公募を継続する。  
(12)サテライト講座/■/柳井広域圏での講座開催を終了する。  
【インターンシップ】  
(13)インターンシップの実施/○/地元企業へのインターンシップを引き続き促進する。  
(14)キャリア教育/◎/見直しを行ったキャリア形成支援科目に新たな科目を追加して強化する。  
【事業運営等】  
(15)事業協働協議会/■/組織としては終了するが、広島広域都市圏の市町とは地域演習などの個別の事業を通じた関係を継続する。  
(16)学内運営組織/○/新たに「地域志向教育特別委員会」を設けるほか、既存の学内委員会において継承する。地域貢献人材育成等を所掌する「総合教育センター(仮称)」の設置を検討する。  
担当する人員について、現行の教員 6 名体制から、教員 4 名・事務職員 1 名の体制に移行し継続する。  
(17)フォーラムの開催/■/終了する。  
(18)広報活動/○/COC+の実績等を大学ホームページに掲載する。  
(19)外部評価と事業報告/■/終了する。  
(20)資金的な継続/○/継続する事業に必要な人員の雇用、及び事業の実施に係る経費について、基本的には本学の自己財源を充当する。

■資料-2 事業費の状況

(円)

	平成 30 年度						令和元年度		
	交付決定に係る補助 対象経費の額	補助金交付額	自己負担額	実支出額	補助金執行額 (流用含む)	自己負担額	交付決定に係る補助対 象経費の額	補助金交付額	自己負担額
広島市立大学	48,982,000	38,374,000	10,608,000	49,022,994	38,374,000	10,648,994	43,132,000	20,232,000	22,900,000
広島大学	750,000	750,000	0	757,093	750,000	7,093	750,000	750,000	0
尾道市立大学	750,000	750,000	0	750,063	750,000	63	750,000	750,000	0
広島経済大学	656,000	656,000	0	660,211	656,000	4,211	726,000	726,000	0
広島工業大学	750,000	750,000	0	750,600	750,000	600	750,000	750,000	0
広島国際大学	270,000	270,000	0	270,000	270,000	0	90,000	90,000	0
広島修道大学	750,000	750,000	0	883,919	750,000	133,919	750,000	750,000	0
安田女子大学	150,000	150,000	0	150,000	150,000	0	150,000	150,000	0
広島商船高等専門学校	750,000	750,000	0	750,000	750,000	0	750,000	750,000	0
合計	53,808,000	43,200,000	10,608,000	53,994,880	43,200,000	10,794,880	47,848,000	24,948,000	22,900,000

### ■資料-3 参加校による協働研究事業の実施結果（令和元年度・概要）

学校名	広島大学
事業名 (プロジェクト名)	コンテンツツーリズムを活用した地域活性化～呉市を中心に～
実施対象地域	市町名 呉市 (地区名 全域)
事業概要	<p>本事業の目的は、呉市におけるコンテンツツーリズムの現状を把握し、持続可能なコンテンツツーリズムにつなぐ方法を提案することで、魅力ある地域づくりに貢献することである。本事業で対象としている呉市は、地域を舞台とする映画、大和ミュージアム、漫画家松本零士氏関連施設など、数多くのコンテンツを有している。</p> <p>まず、呉市の有するコンテンツが観光資源としてどのように活用されているのか、どのような関連政策があるのか、住民側はどのような意識を持っているかを把握するため現地調査を行った。調査は、呉市役所と観光ボランティア協会など行政(住民)側、制服のフジなどコンテンツツーリズムに力を入れている地元企業、ヤマト博物館、市立美術館など観光客が集まる施設、観光客を対象に行った。本事業を通して、呉市における持続可能なコンテンツツーリズム振興のあり方に貢献できると期待される。</p>
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	呉市観光振興課、呉観光ボランティアの会
実施内容 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご当地キャラ祭調査 5月12日:前年度の水害復興を目的に行われたイベント。呉の観光振興のために開発した呉氏を筆頭に、くまモンなど全国からご当地キャラが参加し、キャラクターというコンテンツを活用した地域振興の現状が把握できた。</li> <li>・グループ現地調査1 5月26日:学生16人が4グループに分けて呉の観光資源に対する現地調査を行う。大和ミュージアム、呉市立美術館など観光客が集まる施設において観光客と住民のコンテンツツーリズムに対する意識調査を行った。 調査後、ビューポートホテル呉の会議室で意見貢献し、次回調査の計画を立てた。</li> <li>・グループ現地調査2 7月10日:呉市観光振興課の担当者(3人)を対象に、呉のコンテンツツーリズム振興政策について聞き取り調査を行う。また、地元側として、映画この世界の片隅にとコラボ企画を行った制服のフジの担当者とも聞き取りを行う。</li> <li>・グループ現地調査3 7月15日:地域住民がコンテンツツーリズムについてどのような意識を持っているかにフォーカスした現地調査を行う。</li> </ul>

実施により 得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の実施により以下のような成果が得られた。</li> <li>・学生:学生は事業の参加により地域調査の基礎並びに持続可能なコンテンツツーリズムについて学ぶことができた。アンケートとインタビューの実施、行政へのアポの取り方や結果の分析、地域住民との信頼関係を形成する方法について学べた。さらに、研究の結果を発表し冊子としてまとめる作業を通じて、地域調査研究の基本を身につけることができた。</li> <li>・地域:本事業を通じて、地域の方では、現行のコンテンツツーリズムの課題や今後の戦略について共有することができた。現在、呉市で活用されているコンテンツの中で最も規模が大きいのは、アニメ映画『この世界の片隅に』である。ただ、地域の方では、同様の経験がなく、ただ制作側のニーズに合わせてグッズの開発・販売をするケースが多かった。今回の事業を通じて、これまで他の地域で行われたコンテンツツーリズムの事例を紹介し、呉における持続可能なコンテンツツーリズムのあり方を一緒に模索する機会ができた。</li> <li>・以上の成果は、COC+ Project &amp; IGS Field Seminar in Contents Tourism Report 2019という英語の報告書を通してまとめており、事業の成果を広く伝える予定である。</li> </ul>
実施経費	750,000 円
実施・成果に係る 印刷物等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の観光研究・活動発表会 2018 記録集</li> <li>・COC+ Project &amp; IGS Field Seminar in Contents Tourism Report 2019</li> </ul>

担当教員	学部・職名・氏名	総合科学部・講師・張 慶在
事務担当者	所属・職名・氏名	学術・社会連携室 地域連携部門・主査・中田伸明
	電話番号	082-424-5691
	Fax	082-424-6189
	e-mail	chiikirenkei@office.hiroshima-u.ac.jp



実施内容の写真



5月12日現地調査



5月26日現地調査



7月10日市役所インタビュー



12月7日発表会

学校名	尾道市立大学
事業名 (プロジェクト名)	アートプロジェクトの実施
実施対象地域	市町名 尾道市 (西土堂、東土堂地区)
事業概要	広島市立大学芸術学部現代表現コースと尾道市立大学芸術文化学部美術学科油画コース有志が参加し、地域の特徴的な場所(旧市街斜面地)にある光明寺會館と、アーティストによって再生途中にある空き家となっていた建物の内外を会場として展覧会を開催。関連してトークイベント等を行なった。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	光明寺會館、AIR Onomichi
実施内容 (実績)	<p>11/12 広島市立大学での現代表現コース2年のプランのプレゼンテーションに本学学生も参加(学部3年、4年、大学院生 合計14名)。打ち合わせ及び学内見学も合わせて行う。</p> <p>12/5 広島市立大学による尾道での会場視察:展覧会場となる光明寺會館、及び空き家の下見。実測、撮影を行う(15名程度参加)。アーティスト岩間賢も参加。会場整備準備:また、合わせて空き家の再生資材の搬入作業も行った。</p> <p>12月中旬~1月下旬 展示場所の調整:LINEのネットワークを用い学生間で各自のプランを共有し、それぞれの展示場所を議論しながら決めていった。</p> <p>2/6 展覧会搬入作業:会場整備、光明寺會館2階塗装。空き家の清掃。設置場所に作品移動。搬入作業開始。</p> <p>2/7 搬入作業2日目:各自設置を行う。参加者によっては現地制作を進行させる。展示目録、表示など制作。印刷。</p> <p>2/8~2/16 展覧会期間(展覧会来訪者:100人程度)</p> <p>2/8 オープニング・交流会:自作について話し、意見交換をおこなった。その後、食事をしながら歓談。意見交換、交流を行った(両校合わせて25名程度参加、本学より10名程度参加)。</p> <p>2/16 夕方以降搬出作業</p> <p>3/2 展覧会後の反省会:本学から大学院生4名参加</p> <p>4月以降 参加できなかった学生を交えて後日行う計画</p>

<p>実施により得られた成果</p>	<p>大学間交流：油画コースとデザイン工芸学科の現代表現コースという普段交流のない学科間の交流が実質的に深まった。3年目にして、本学より展覧会参加メンバーが出てきて、実際の作品展示の経験を通しての交流となったので、昨年度までよりも交流の密度は濃いものとなった。また、準備段階で広島市立大学の現代表現コースの設備や、授業の様子を見学できたのも大きな収穫だった。授業の差異を感じ取り、それによって自分が普段行っている場所で学んでいることが相対化できたのではないかとと思われる。</p> <p>展示経験を通じて得られたこと：本学で参加したのが油画コースということで、普段、アリエでの絵画制作をメインにしている学生が大多数であった。したがって今回のように屋外や、特色あるスペースに向いて展示する経験は初めてであったので、彼らにとって新鮮な経験をする機会となった。実際には、十全に準備ができていないケースや、作品と場所の関係などを十分に吟味できていないケースもあったが、今後彼らが作品設営、展示環境を考えていく上での第一歩になったのではないと思う。実施後のミーティングの中で、得られた手ごたえや、次回に向けての反省点を聞くことができた。</p> <p>地域への効果：展覧会を実際に訪れたのは100人程度であり、また、両校の交流展という形で実施し、地域を直接的に巻き込む企画ではなかったため、地域に与える波及効果は大きくなかったが、展覧会準備時に、会場や会場へのアプローチを整備したため、結果的にエリアの環境整備につながった。</p>
<p>実施経費</p>	<p>750,082 円</p>
<p>実施・成果に係る印刷物等</p>	<p>展覧会フライヤー 展示作品目録、配置図</p>

<p>担当教員</p>	<p>学部・職名・氏名</p>	<p>芸術文化学部美術学科・准教授・小野 環</p>
<p>事務担当者</p>	<p>所属・職名・氏名</p>	<p>企画広報室・専門員・森下 育哉</p>
	<p>電話番号</p>	<p>0848-22-8311</p>
	<p>Fax</p>	<p>0848-22-5460</p>
	<p>e-mail</p>	<p>kikakukouhou@onomichi-u.ac.jp</p>

実施内容の写真



11/12 広島市立大学でのプレゼンテーション



12/5 展覧会場下見



2/7 搬入作業



展示作品 空き家のスペース



展示作品 光明寺會館



2/8 出品作家によるトーク

学校名	広島経済大学
事業名 (プロジェクト名)	観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業 (学生による観光資源等の再発見と発信)
実施対象地域	①広島県廿日市市宮島町 ②広島県呉市下蒲刈町 ③瀬戸内海地域の戦跡地 広島市 呉市 廿日市市など
事業概要	<p>①広島県廿日市市宮島町 宮島の魅力を発信したい学生プロジェクトによる事業 ・宮島の魅力を発信したい学生プロジェクトは、世界遺産である宮島の隠れた魅力を「学生目線」、「若者目線」で発掘し、それを発信することを活動目的としている。</p> <p>②広島県呉市下蒲刈町 若旅促進プロジェクトによる事業 ・朝鮮通信使の縁(ゆかり)の地や姉妹都市提携など、つながりが多い広島県と韓国との関係の中で、広島県内を訪れる韓国人旅行者が非常に少ない現状(全国第19位、観光庁訪日外国人消費動向調査2017年データより)を打破するために、両国の学生が協力して広島瀬戸内海地域の魅力を再発見すること、及び両国の若者を対象にした日韓交友のツアーを計画し、旅行業界に向け提案することを目的としている。 ※日韓関係悪化に伴い、当初予定していた事業計画を変更。</p> <p>③瀬戸内海地域の戦跡地 広島市 呉市 廿日市市など 竹林栄治ゼミによる事業 ・広島瀬戸内海地域に点在する戦跡地をマップにまとめ、ダークツーリズムの発信を行う。現地を訪れる外国人観光客への歴史や知識、文化の伝承を事業目的としている</p>
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	①宮島の磯・生きもの調査団、(株)フレスタホールディングス、(一社)宮島観光協会、宮島未来ミーティング、安田女子大学、広島工業大学、比治山大学 ②西日本旅客鉄道(株)、国土交通省中国運輸局、(株)JTB ③広島電鉄、(株)大之木ダイモ、(公財)広島市文化財団 広島城
実施内容 (実績)	<p>①宮島の魅力を発信したい学生プロジェクトによる事業 ・YouTube 動画の撮影(6月～12月)および作成(1～3月)。 ・留学生を対象とした「宮島魅力探索ツアー」を実施(7月、10月)。 ・「宮島の魅力と課題」をテーマとした写真展を学内(8月)、学外(10月)で開催。 ・干潟教室「マテ・マテ・マテ貝を見てみんカイ!! in 宮島」を開催(8月) ・宮島に関する団体(宮島観光協会・宮島未来ミーティング)と学生(広島経済大学・広島工業大学・比治山大学)との意見交換会実施(12月)</p> <p>②若旅促進プロジェクトによる事業 ・フラワーフェスティバルにて朝鮮通信使行列に参加(5月) ・西日本旅客鉄道主催「瀬戸内カレッジ(丸亀市)」に参加(8月)。 ・「瀬戸内カレッジ」報告会にて2泊3日の旅行プランを企画しプレゼンテーション実施(12月)。 ・企画したツアーの商品化を目指し、中国運輸局やJTBなどの旅行業界を対象としたプレゼンテーションを実施(3月)。</p> <p>③竹林栄治ゼミによる事業 ・「大学生による戦跡ガイドー戦争記憶の継承とダークツーリズムー」として広島市篇</p>

	(広島城～原爆ドーム～被爆電車内～広島港)(10月)と、呉市篇(アレイからすこじま～大和ミュージアム～てつのクジラ館)(12月)を実施。 ・「戦跡ガイドブック改訂版」を発行(12月、1,000部発行)。 ・「宇品戦跡ガイドブック(ドイツ語版)」を作成(3月)
実施により 得られた成果	<p>①宮島の魅力を発信したい学生プロジェクトによる事業 17カ国(45名)の外国人観光客に宮島で「食べたもの」「訪れた場所」「挑戦したい日本文化」などアンケートを実施した。その結果を踏まえ、本学留学生を対象とした「宮島魅力探索ツアー(7月、10月)」を企画、まず事前にツアー研修会を行うことでツアーへの理解が進み、当日は満足してもえるツアーとなった。実施メンバーは英語の壁、文化の違い等、戸惑いもあったが新しい知識を得ることができた。</p> <p>②若旅促進プロジェクトによる事業 今年度は日韓関係の悪化で韓国との交流は難しかったが、あえて他の観光地(フィールド)を調べることで、あらためて「せとうち」の魅力に気づきことができた。さらにSNS(Facebook, instagram, Tik Tok など)を利用して、旅行の素晴らしさやその地域の魅力を発信することができた。</p> <p>③竹林栄治ゼミによる事業 ゼミ生を中心に留学生も交え「広島戦跡巡りガイドブック改訂版」を1,000部作成した。戦争記憶を継承するための取り組みの一環として、また外国人観光客が呉市内に滞在し回遊するための歴史コンテンツ充実の一環として、今年度は新たに戦跡ガイドツアー「呉市篇」を実施した。本学の学生・留学生や社会人を対象にガイドを実施する過程で、歴史知識の獲得、他者への働きかけ力などを涵養できた。大之木ダイモ(株)傘下の「澎湃館」での見学の際に同社長から同館の歴史について聴くことができた。また中国新聞(12/12付け)に取り上げられた。</p>
実施経費	740,792円
実施・成果に係る 印刷物等	<p>①宮島の魅力を発信したい学生プロジェクト(広島県廿日市市宮島町) ・You Tube 動画(映像) ・写真展ポスター「宮島の魅力と課題」(チラシ) ・干潟教室「マテ・マテ・マテ貝を見てみんカイ!!」(チラシ) ・留学生対象「宮島魅力探索ツアー」(チラシ)</p> <p>②若旅促進プロジェクト(広島県呉市下蒲刈町および山口県熊毛郡上関町) ・朝鮮通信使行列参加者募集(チラシ) ・瀬戸内カレッジ2019(パンフレット) ・若旅促進プロジェクト最終報告会(チラシ) ・Tik Tok 動画(映像)</p> <p>③竹林栄治ゼミによる事業 ・大学生による広島・呉戦跡ガイド(チラシ) ・広島戦跡巡りガイドブック(ガイドブック)</p>

担当教員	学部・職名・氏名	教養教育部 教授 濱田 敏彦(ハマダ トシヒコ) 経営学部 教授 藤口 光紀(フジグチ ミツノリ) 経済学部 准教授 竹林 栄治(タケバヤシ エイジ)
	所属・職名・氏名	教育・学習支援センター・係長・野村 行宏(ノムラ ユキヒロ)
	電話番号	082-871-9345
事務担当者	Fax	082-871-1021
	e-mail	yk-nomu@hue.ac.jp

実施内容の写真

① 宮島の魅力を発信したい学生プロジェクトによる事業



(留学生対象「宮島魅力発見ツアー」)



(学内写真展)

② 若旅促進プロジェクトによる事業



(体験学習)



(立案ツアープラン)

③ 竹林栄治ゼミによる事業



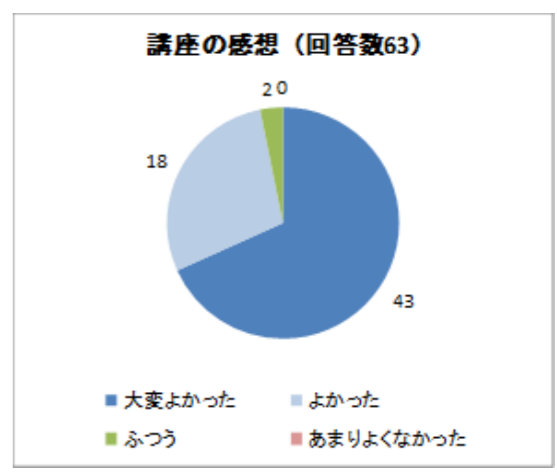
(大学生による戦跡ガイド「呉市篇」)



(戦跡ガイドブック改訂版)

学校名	広島工業大学
事業名 (プロジェクト名)	宮島・土曜講座
実施対象地域	廿日市市
事業概要	広島工業大学プロジェクト研究センター「地域保全まちづくり研究センター」の研究 成果の発信を核として、広島工業大学教員と外部講師により「まちづくり」に関連す る講座を展開する。月1回(6月～12月)の講座では、講師による「講話」と講師及 び参加者同士の「対話」を交えて、講座テーマの共有と理解を高めていく。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	廿日市市
実施内容 (実績)	○第1回:「広島を訪れる外国人観光客の特徴」 6月15日(土)13:30～15:30 (会場:広島市立大学・サテライトハウス宮島)20名参加 ○第2回:「地域商社あきおおたの挑戦」 7月13日(土)13:30～15:30 (会場:広島市立大学・サテライトハウス宮島)15名参加 ○第3回:「まち歩きのための空間整備 ～宮島の歩行者通行量の話から海外のLRTの話まで～」 8月10日(土)13:30～15:30 (会場:広島市立大学・サテライトハウス宮島)7名参加 ○第4回:「地域課題解決実習」成果報告会 9月14日(土) 13:30～15:30(会場:宮島こもん)21名参加 ○第5回:地域協働のまちづくり～合併後の自治組織を問う～ 10月12日(土)13:30～15:30(会場:宮島こもん)6名参加 ○第6回:「宮島口地区のまちづくりについて」 11月9日(土)13:30～15:30 (会場:広島工業大学・五日市キャンパス)36名参加 ○大学連携による学生の観光に関する研究・活動発表会への参加 12月7日(土) 学生2組 4名発表

実施により 得られた成果	<p>講座参加者の感想(回答数63名)について「大変よかった」「よかった」と61名が回答しており、良い評価を得ることができた。講座参加者延べ140名のうち32名が学生の参加者であり、宮島や国内外のまちづくり事例について理解が深まった旨の感想を得た。また、廿日市市役所からも延べ9名の参加があり、地元自治体との連携を深める役割を担った。</p> <p>関連行事として実施した「オープンこもん」(6～11月の月1回)では参加者のべ72名中44名の学生の参加があり、「卒業研究」や「地域課題解決実習」に関する情報提供などを行い、卒業論文2件、実習報告2件の成果につながる支援を行うことができた。</p>
-----------------	--



実施経費	750,600円
実施・成果に係る 印刷物等	①「宮島・土曜講座2019」チラシ ②「宮島・土曜講座2019」報告書

担当教員	学部・職名・氏名	工学部・教授・伊藤 雅
事務担当者	所属・職名・氏名	地域連携推進室・サブリーダー・佐藤 隆
	電話番号	082-921-4222
	Fax	082-921-8963
	e-mail	c-renkei@it-hiroshima.ac.jp

実施内容の写真

○第1回:「広島を訪れる外国人観光客の特徴」



○第2回:「地域商社あきおおたの挑戦」



○第3回:「まち歩きのための空間整備～宮島の歩行者通行量の話から海外のLRTの話まで～」



○第4回:「地域課題解決実習」成果報告会



○第5回:「地域協働のまちづくり～合併後の自治組織を問う～」



○第6回:「そぞろあるきマルシェによる宮島口まちづくりの取り組み」



○大学連携による学生の観光に関する研究・活動発表会への参加



学校名	広島国際大学
事業名 (プロジェクト名)	中山間地域と島しょ部間の交流による地域活性化プロジェクト
実施対象地域	山県郡安芸太田町三合地区、東広島市黒瀬丸山地区ならびに呉市豊島地区
事業概要	安芸太田町三合地区は三段峡、豊島地区は柑橘の町、一本釣り漁法の町として知られているが、実は高齢化率が非常に高い。これらの地域の住民の“しあわせづくり”を促進すると共に二つの地区の交流を図ることにより、相乗的な活性化効果をもたらすことを目的とする。また、二地区の情報発信に益することを目的として、既にサロンを実施している東広島市黒瀬町丸山地区との交流も取り入れる。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	安芸太田町・町社協、呉市豊浜市民センター、東広島市社協ならびに黒瀬支所
実施内容 (実績)	<p>&lt;安芸太田町三合地区での事業実施内容&gt;</p> <p>1. 2019年6月29日、第13回三和サロンを開催。3つの自治会から20名、社協2名、集落支援員1名、児童1名、教員1名、学生1名で開催した。2018年11月の3地区合同サロンの折に、制作を進めてきた影絵の完成披露で好評を得たこと、中国新聞に記事として掲載されたこともあり、地元の紙芝居集団から「是非、紙芝居として取り上げたいので、シナリオと影絵のデータをお借りしたい」との要請が三和サロンの方にあった。そのため、急遽、サロンの召集がかかり、検討・了解した。また、影絵の代わりに何かを制作することを提案し、「安芸太田地区に関するいろはかるた」の制作に取り組むこととなった。</p> <p>読み札と取り札の案をサロン参加者が考え、自治会長が集約して吉川が補足したものを次回のサロンで検討することとした。</p> <p>2. 2019年8月31日、第14回三和サロンを開催。3つの自治会から21名、社協2名、集落支援員1名、児童2名、教員1名ならびに人形劇集団むくの会6名で開催した。</p> <p>当初、紙芝居にする予定であったが、むくの会メンバーで話し合った結果として影絵「龍神とたたら」の原版から24枚を抜粋した影絵を用い、効果音を入れたものを作製し上演した。続いて、別の題材を使った人形劇を上演・鑑賞した。昼食後、「安芸太田町名所名物なぞなぞいろは歌留多」の取り札・読み札について一つ一つプロジェクターで映し出しながら検討を行った。</p> <p>ただ、当初は純粋な「いろはかるた」を計画していたものの、サロン参加者から出てきた読み札・取り札の内容を検討した結果、なぞなぞ形式のいろはかるたとし、三和地区のみならず安芸太田町の住民で共有して欲しいという思いや、安芸太田町以外の地域の方たちに安芸太田町の名所名物を知ってもらうことで興味・関心を高めることを意図した内容のものにすることに決定した。</p> <p>今回検討した結果を踏まえ、また企画趣旨を再確認した上で、次回(10月)</p>

実施内容 (実績)	<p>までに再度、読み札と取り札の内容を考えてくることとした。</p> <p>また11月の3地区合同イベントの折に企画内容と経過を紹介することにした。</p> <p>3. 2019年10月15日、第15回三和サロンを開催。3つの自治会から21名、社協2名、集落支援員1名、本学教職員1名で開催した。</p> <p>再度、サロン参加者から出てきた読み札・取り札の内容について検討を加え、プレゼン用とかるた制作用のデータを確定した。</p> <p>4. 2020年2月29日、第16回三和サロンを開催。3つの自治会から20名、地域の児童2名、社協1名、集落支援員1名、本学教員1名で開催した。</p> <p>前回確定した「安芸太田町名所・名物なぞなぞ歌留多」のデータを基に製作したカルタ(読み札・取り札、各64枚、タイトル札1枚、企画制作者一覧札1枚)の3セットを持参し、披露をした。その後、全員を2グループに分け、各1セットを使用してカルタ取り大会を開催。当初は1回で終わる予定であったが、参加者に希望もあり、昼食をはさんでの再実施。</p> <p>非常に愉しんで取り組まれていた。3セットの内の1セットはサロンで保管し、残る2セットは社協に預け、町内外からの希望に応じて活用していくことになった。</p> <p>今後、他の地域からの情報を取り入れながら、カルタを更に充実・進化させていくこととなった。</p> <p>&lt;黒瀬丸山地区でのサロン&gt;</p> <p>平均して隔月1度程度、地域住民の参加は平均13名、学生は平均6名、教員1名の参加のもとにサロンを開催した。</p> <p>1. 2019年4月1日 丸〇サロンとしての親睦会「タケノコ掘りと花見」を開催。真野本神社に集合後、裏山での筍掘りののち、収穫した筍と弁当で親睦会を開催した。</p> <p>2. 2019年5月26日 丸山地区子ども会の子どもたちと田植えを行った。丸山地区の子ども会から11名の子どもたちと7名の保護者が参加し、12月の餅つき会のためのもち米の苗を植えた。</p> <p>3. 2019年6月1日 丸山地区自治会との共催でホテル祭りを開催した。丸山地区を流れる丸山川上の道路を通行止めにして開催。丸山太鼓の演奏で祭りが始まり、地区青年会に協力して屋台やヨーヨー釣り、ゲームコーナーを学生が担当した。</p> <p>4. 2019年7月20日 親睦会と今後の活動方針について話し合いを行った。年度前半の親睦会を兼ね、後半、特に11月の合同イベントの内容などについて協議した。</p> <p>5. 2019年10月5日 3地区合同イベント開催内容ならびに準備等についての話し合いを行った。</p> <p>7月の協議内容を再度検討し、当日までの買い出しや当日の行動・調理計画、</p>
--------------	---

<p>実施内容 (実績)</p>	<p>イベントの進行等について具体的で詳細なスケジュールリングを行った。</p> <p>&lt;黒瀬での第3回3地区合同イベントの開催&gt;</p> <p>2019年11月9日、東広島市黒瀬の保健福祉センターにて黒瀬丸山地区、安芸太田町三合、豊島の3地区の合同イベントを開催した。三合地区16名、豊島地区17名、黒瀬丸山18名、学生・OB 3名、本学教職員1名、社協2名、安芸太田町職員2名、豊浜市民センター職員2名の参加があった。10:00に黒瀬保健福祉センター前に集合し、バスに乗りそのまま黒瀬の勝梅園で皮ごと食べることが出来るバナナ栽培を視察した。さらに、龍王山公園を見学後、保健福祉センターに戻り、11時から3地区の会長挨拶の間に昼食の配膳を行った。(昼食は、7時頃から丸山地区女子部と学生・OBとでキノコご飯と豚汁、丸山団子などの準備を進めた)。配膳終了後、昼食をとりながら親睦を図り、認知症予防のゲームを行った。13:00より黒瀬丸山地区の和太鼓部による演奏、引き続き、安芸太田町三合地区の皆さん(三和サロン)が企画し、制作を進めている「安芸太田町名所・名物なぞなぞかるた」(案)をプロジェクターで投影しながら、安芸太田町の名所・名物の紹介を行った。</p> <p>極力お金を使わずに、自宅・地域で採れるもの等を持ち寄ってお迎えならびに交流するというイベント趣旨のもと、一昨年から開催してきている本イベントに参加された方たちはもとより協力学生にも非常に好評であった。また、安芸太田町の取り組みに強いインパクトを受けた豊島の参加者からは同様の企画を検討し、取り組んでみるのとことであり、協力要請があった。</p> <p>なお、今年度がCOC+最終年度ということもあり、次年度以降の3地区合同イベントの継続開催については現時点では未定であるが、東広島市社協から継続開催に向けて協力をするという返事を得ているため、継続開催の方向で調整を行っていく予定である。</p> <p>また、安芸太田町での三和サロンについては、年間の開催回数を減らしながらも、継続開催する方向で調整している。尚、黒瀬地区での丸〇サロンについては住民主体で運営することとなり、認知症サロンの開催も兼ねた形で引き続き運営していくとのことである。</p>
<p>実施により得られた成果</p>	<p>本学のCOC+取り組み対象地域(安芸太田町三和、東広島市黒瀬丸山、呉市豊島)の住民の“しあわせづくり”を促進すると共に交流を図ることにより、相乗的な活性化効果をもたらすこと、また、それぞれの地域についての情報発信を内外に向けて行うことを目的として事業を展開してきた。(ここでの“しあわせ”とは、“生きた証”を残すことに繋がる取り組みをすることで「QOLを高める」ことである。)</p> <p>その意味では細々とながらではあるがそれぞれの地域でのサロン活動を通し、また年1回、3地区の持ち回りによる合同サロン開催を通じて“しあわせづくり”に貢献出来た。</p>

<p>実施により得られた成果</p>	<p>また、影絵の制作ならびにカルタの制作により、他の地域にもそれぞれの地域特性に合った取り組みに向けたエネルギーの醸成を促すことが出来た。</p> <p>更にまた、それら制作物を町内外で活用した交流の機会を設けた、特に安芸太田町にあっては町内の他のサロンや全国からの生徒募集に積極的に取り組んでいる加計高校の生徒たちとの交流をもつことにより地域の魅力を再発見してもらうことに繋がった。</p> <p>(今後も引き続き制作物を活用した町内外への情報発信を継続することで、人口流出の減速ならびに町外からの流入の促進効果が期待できるのではないかと考える。)</p>
<p>実施経費</p>	<p>90,000 円</p>
<p>実施・成果に係る印刷物等</p>	<div data-bbox="1923 726 2617 1150" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1902 1161 2605 1188">安芸太田町三和サロンで制作しているかるたのケースデザイン</p> <div data-bbox="1893 1260 2644 1667" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1941 1696 2570 1766">安芸太田町三和サロンが企画制作するかるたの中の1枚 (読み札・取り札・解答となる写真)</p>



担当教員	学部・職名・氏名	研究支援・社会連携センター 教授 吉川 眞
事務担当者	所属・職名・氏名	研究支援・社会連携センター 犬童 秀一
	電話番号	0823-69-6034
	Fax	0823-70-4931
	e-mail	INUDO.Shuichi@josho.ac.jp

実施内容の写真	
	
丸〇サロン主催の地域の子もたちとの田植え会の1ショット	丸山地区との共催で開催したほたる祭りの1ショット
	
3サロン合同イベントでの開会挨拶の1ショット	3サロン合同イベントの懇親会の1ショット

学校名	広島修道大学
事業名 (プロジェクト名)	観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業 もとまちカフェ及び地域と連携した教育
実施対象地域	自治体名 広島市、北広島町、岩国市錦町 地区名 中区基町、北広島町大朝、岩国市錦町
事業概要	<p><b>【もとまちカフェ】</b> 今年度の目標は、「基町の内の人と外の人をつなぐ」という全体コンセプトのもと、外の人をもっと基町に来る機会を増やそうと広島市立大学の学生と広島修道大学の学生が共同で幾つかのチームに分かれて企画を練って実施した。</p> <p><b>【地域と連携した教育】</b> PBL型授業である「ひろしま未来協創プロジェクト」の授業において、北広島町(2回)と岩国市錦町(1回)、島根県邑智郡邑南町(3回)へバスで出向き、地域の方と話し合い、地域課題・地域資源に着目し、それらの解決・価値化のための企画手法について学習した。</p>
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	広島市中区役所 北広島町
実施内容 (実績)	<p><b>【もとまちカフェ】</b> 《活動状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「うたごえ喫茶」におけるもとまちカフェの実施 日時:2019年8月24日(土) 場所:広島市基町公民館(広島市中区白島町) 「もとまちカフェ」を広く知ってもらうために、8月24日、広島市基町公民館にて「うたごえ喫茶」における「もとまちカフェ」を開催し、「もとまちハーブティー」を無料提供した。</li> <li>・「ひかりカフェ vol.2」実施 日時:2019年12月15日(日) 場所:基町ショッピングセンターの中央広場 ランプを階段や藤棚に設置し、ワークショップで町内のみなさんに作ってもらった「ひかりのフィルム」を点灯し、来場者に温かい飲み物を提供した。</li> </ul> <p><b>【地域と連携した教育】</b> 《活動状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10/12 :北広島町大朝地域及び島根県邑智郡邑南町にて実施</li> <li>10/12 :島根県邑智郡邑南町にて実施</li> <li>11/14 :北広島町大朝地域及び島根県邑智郡邑南町にて実施</li> <li>11/24 :岩国市錦町地域にて実施</li> </ul>

	2020/1/19:岩国市錦町地域にて実施
実施により得られた成果	<p><b>【もとまちカフェ】</b> 「うたごえ喫茶」と「ひかりカフェ vol.2」を実施することで、基町住宅地区住民と地区外から訪れる人々の交流の機会を作り出すことができた。</p> <p><b>【地域と連携した教育】</b> 《PBL活動事例の抜粋》 ・ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のイノベーション) 日時:2019年11月14日(木) 場所:北広島町大朝地域及び島根県邑智郡邑南町 参加人数:9名 北広島町に隣接する邑南町の古民家を大朝の古民家シェアハウスと連携するシェアハウス並びにコミュニティスペースとしていくための提案を学生がプレゼンテーションし、具体化に向けて協議を行った。</p> <p>・ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のコミュニケーション) 日時:2019年11月24日(日) 場所:山口県岩国市錦町 参加人数:15名 広島市と広域連携している岩国市錦町を訪問。地域資源と限界集落の現状を視察し、現地の方々と対話を行った。錦町の今後のアクションプランの方針に関して地域の方々と意見交換を行った。錦町の限界集落の現状は学生にとって想像以上に深刻な状況であることを確認した。</p>
実施経費	762,390円
実施・成果に係る印刷物等	PBL授業における現地での意見交換におけるポスター

担当教員	学部・職名・氏名	地域イノベーション教育担当教員/ 国際コミュニティ学部 准教授 木原一郎
事務担当者	所属・職名・氏名	ひろしま未来協創センター 参事 佐伯美栄子
	電話番号	082-830-1114
	Fax	082-830-1932
	e-mail	m-saeki@js.shudo-u.ac.jp

実施内容の写真

【ひかりカフェ】



【地域と連携した教育】



2019年11月14日(木)

北広島町大朝地域及び島根県邑智郡邑南町



2019年11月24日(日)山口県岩国市錦町

学校名	安田女子大学
事業名 (プロジェクト名)	「筏津プロジェクト」「グローバルキッチンプロジェクト」への参画
実施対象地域	①自治体名 北広島町 地区名 筏津地区 ②自治体名 広島市 地区名 中区基町地区
事業概要	<p>アートプロジェクトへの参画</p> <p>①北広島町「ニューライフ」 筏津プロジェクト:「筏津クッキング」 北広島町の筏津芸術村を中心に広島市立大学が取り組んでいる「筏津プロジェクト」の一環として参画。地域運動会の昼食会において、住民の方々を対象とした「筏津クッキング」を開催する。 本学は 2018 年度から参画しており、今年度も家政学部管理栄養学科の教員・学生が実施。 調理や栄養に関するレクチャーだけではなく、地域行事にも積極的に参加し、住民との交流を図っていく。学生自らが地域の魅力を発見し、課題に対して主体的に行動する力を養うことも目的とする。</p> <p>②広島市基町「ニューコミュニティ」 基町プロジェクト:「グローバルキッチンプロジェクト(基町クッキング)」 空き店舗を改修した活動スペース「M98&lt;eat&gt;」において「食」関連のイベントを実施し、コミュニティの活性化や住民交流、健康促進の場をつくることを目的とする。 本学は 2016 年度から参画しており、「筏津クッキング」同様、家政学部管理栄養学科の教員・学生が料理試食会を実施。健康をテーマに、減塩かつ食欲増進となる献立を考え、調理や栄養に関するレクチャーを行う。</p>
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	
実施内容 (実績)	<p>①筏津プロジェクト:「筏津クッキング」 5月:今年度のプロジェクト実施に向けての打ち合わせ 6月:実施に向けての準備(~9月) 8月:学内実習室で試作 9月:「筏津クッキング」実施(9月1日(日)) テーマ…「バランスよく 食欲増進ごはん」 メニュー…牛肉のトマトシチュー・生春巻き・カラムーチョサラダ・黒ごまプリン 指導教員…家政学部管理栄養学科 渡邊喜弘准教授 学 生…家政学部管理栄養学科 11名 参加者…約 80名 9月:活動の振り返り</p>

実施内容 (実績)	<p>②基町プロジェクト:「グローバルキッチンプロジェクト(基町クッキング)」 5月:今年度のプロジェクト実施に向けての打ち合わせ 6月:実施に向けての準備(~10月) 9月:学内実習室で試作(~10月) 10月:「グローバルキッチンプロジェクト(基町クッキング)」実施 (10月5日(土)) テーマ…「バランスよく 食欲増進ごはん」 メニュー…雑穀ごはん・肉団子の甘酢あん・かぼちゃチーズサラダ・減塩味噌汁・黒ごまプリン 指導教員…家政学部管理栄養学科 渡邊喜弘准教授 学 生…家政学部管理栄養学科 9名 参加者…26名 10月:活動の振り返り</p>
実施により 得られた成果	<p>管理栄養学科を擁する大学としての強みを生かした地域との連携を通して、住民交流の場、健康促進の場を創出することができた。</p> <p>■地域に対する効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理栄養士になるために大学で何を学んでいるかを知ってもらうことができ、日々の学びを「低栄養予防料理」と「腸内環境を整える料理」というかたちで地域の方々に還元することができた。(筏津)</li> <li>・野菜中心の食生活こそ健康食だと思っていた地域の方々と直接交流することによって、肉や魚、卵などが身体を支えるといった正しい栄養の知識を学んでもらう機会となった。(筏津)</li> <li>・今回は「バランス良く食べる」がテーマで、高齢者にサルコペニアで起こる身体の変化などが実感として伝わったことで、あらためて食の大切さを認識してもらうことができた。また、栄養に関する知識を正しく修得し、低栄養についての予防意識も高めてもらう機会となった。(基町)</li> </ul> <p>■学生に対する効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会で管理栄養士がどれだけ求められているのかを肌で感じるすることができた。(筏津)</li> <li>・幅広い年代の方々(小学生から高齢者まで)と交流し、食の大切さを伝えることができた。将来、管理栄養士として社会に貢献したいという気持ちがさらに高まり、そのために今何をすべきかを考える良い機会となった。(筏津)</li> <li>・本学管理栄養学科では、入学後、自分自身の食事を記録し、食生活を見直すところからはじめる。食の大切さに気づき、見直すべき点を勉強していくが、実生活で実践していくのは容易ではなく、この隔たりをどう埋めるかが課題となっている。今回の料理教室で交流した高齢者においても、長い年月で身についた食習慣を変えることは容易ではなく、アドバイスや指導もマニュアル通りにはいかないことを実感した。高齢者にとって「食べること」は、楽しみや生きがいの上から重要であり、各々の気持ちに寄り添い共感しながら、どのようにアプローチしていくかを考える必要があると感じた。料理教室の実施により課題を発見することができ、今後、大学での学びを深めていく中で非常に</li> </ul>

	有益な経験となった。(基町)	
実施経費	150,000 円	
実施・成果に係る印刷物等	<b>■実施に係る印刷物等</b> 1.パンフレット(①筏津、②基町) 2.アンケート(①筏津、②基町) <b>■成果に係る印刷物等</b> 1.アンケート結果(①筏津、②基町)	
担当教員	学部・職名・氏名	家政学部管理栄養学科・准教授・渡邊 喜弘
事務担当者	所属・職名・氏名	企画部企画課・課長・脇田 好章
	電話番号	082-878-9980
	Fax	082-878-8408
	e-mail	kikaku.box@yasuda-u.ac.jp

実施内容の写真

2019年8月26日(月)学内実習室での試作



2019年8月31日(土)学内実習室での試作



2019年9月1日(日)「筏津クッキング」



2019年10月5日(土)「グローバルキッチンプロジェクト(基町クッキング)」



学校名	広島商船高等専門学校
事業名 (プロジェクト名)	高齢者健康調査(企画名:商船ヘルススポーツフェスタ)
実施対象地域	市町名 大崎上島町 ( 地区名 大崎上島 )
事業概要	令和元年 12 月 15 日(日), 地域住民の健康調査・健康体操及び本校学生, 地域住民と島内の外国人居住者とのスポーツ交流を通して, 地域社会が抱える急速な少子高齢化問題を中心とした課題解決と地域コミュニティの担い手となる人材の育成及び国際交流を深めることを目的として, スポーツ×健康×交流イベントを実施した。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	広島大学
実施内容 (実績)	<p>・開催日時、場所 令和元年 12 月 15 日(日)、広島商船高等専門学校</p> <p>・参加者数 本校学生 12 名, 地域住民等 54 名</p> <p>・実施内容 地域住民の健康調査・健康体操及び本校学生, 地域住民と島内の外国人居住者とのスポーツ交流を通して, 地域社会が抱える急速な少子高齢化問題を中心とした課題解決と地域コミュニティの担い手となる人材の育成及び国際交流を深めることを目的として, スポーツ×健康×交流イベントを実施した。 本事業の実施項目は次の 4 項目であった。</p> <p>(1) 足裏に注目した健康調査 (2) 健康体操 (3) バスケットボール国際交流会 (4) バブルサッカー交流会</p>
実施により 得られた成果	本事業に参加した学生は, 活動を通して健康・スポーツやコミュニケーションの大切さに気づくとともに, 地域住民等との交流及び地域課題への理解を深め, 地域貢献への意識が向上する機会となった。

実施経費	750,000 円
------	-----------

実施・成果に係る 印刷物等	高齢者健康調査チラシ
------------------	------------

担当教員	学部・職名・氏名	一般教科・教授・澤田 大吾
事務担当者	所属・職名・氏名	総務課研究・地域連携室・室長・増本 浩司
	電話番号	0846-67-3179
	Fax	0846-67-3009
	e-mail	koho@hiroshima-cmt.ac.jp

実施内容の写真



健康調査の様子



健康体操の様子

## ■資料－4 外部評価の内容

### I 平成30年度事業に対する評価

#### 1 評価の方法と結果

##### (1) 取組に対する個別評価

文部科学省に提出したCOC+事業実施計画に基づき、4つの取組の16の事項について広島市立大学が自己評価を行い、その上で外部評価委員が4つの取組について個別評価を行う。

評価は、いずれも以下の5段階で行う。

##### ア 広島市立大学の自己評価

「s」 計画を大きく上回った実績である。

「a」 計画を上回った実績である。

「b」 計画に沿った実績である。

「c」 計画を下回った実績である。

「d」 計画を大きく下回った実績である。

##### イ 外部評価委員の評価

「S」=5点 計画を大きく上回った実績である。

「A」=4点 計画を上回った実績である。

「B」=3点 計画に沿った実績である。

「C」=2点 計画を下回った実績である。

「D」=1点 計画を大きく下回った実績である。

##### (2) 総合評価の方法

##### ア (取組項目ごとの評価)

各委員による1～4の取組項目ごとの評価の点数(5～1)を一覧表にする(表1)。

表1の個別評価点と平均値を基に、項目ごとに意見の交換を行い(必要に応じて当局へ実施内容を確認)、委員会としての取組項目の評価点を決定する。

##### イ (総合評価点の集計)

取組項目ごとの評価点を、表2の評価比率に応じて加重平均(評点×評価比率の合計)した結果を集計する(表3)。

##### ウ (総合評価の決定)

イの集計結果もとに、委員会としての総合評価について意見の交換により最終的な確認を行い、表4の評価基準にあてはめて総合評価の記号とする。

##### エ (総評の作成)

広島市立大学の自己評価の総括を踏まえ、意見の交換を行い、その内容を集約して外部評価委員会の

総評とする。

表1(取組項目ごとの評価)

取組項目	委員の個別評価点と平均値		委員会としての評価点
	個別評価点	平均値	
1 教育カリキュラムの整備推進	4	4.2	4.2
	4		
	4		
	4		
	5		
2 観光データベースの構築と活用	3	3.2	3.2
	3		
	3		
	3		
	4		
3 観光振興を目的とした 教育研究事業の立案・推進	4	4.4	4.4
	4		
	5		
	4		
	4		
4 事業運営(実施体制の整備)	4	3.8	3.8
	3		
	3		
	4		
	5		

表2(評価比率)

取組項目	評価比率
1 教育カリキュラムの整備推進	35%
2 観光データベースの構築と活用	20%
3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	35%
4 事業運営(実施体制の整備)	10%

表3(集計結果)

取組項目	評点(α) 委員会としての評 価点	評価比率 (β)	α×β
1 教育カリキュラムの整備推進	4.2	35%	1.47
2 観光データベースの構築と活用	3.2	20%	0.64
3 観光振興を目的とした 教育研究事業の立案・推進	4.4	35%	1.54
4 事業運営(実施体制の整備)	3.8	10%	0.38
計			X 4.03

表4(総合評価の基準)

評価の基準値	総合評価の記号	
4.5<X	S	計画を大きく上回った実績を挙げている。
3.5<X≤4.5	A	計画を上回った実績を挙げている。
2.5<X≤3.5	B	計画に沿った実績となっている。
1.5<X≤2.5	C	計画を下回った実績となっている。
X≤1.5	D	計画を大きく下回った実績となっている。

## 2 総合評価及び総評

### 評価の記号

A: 計画を上回った実績を挙げている。

### 総評

本COC+事業は、広島広域都市圏及び尾道市の課題である人口流出を、観光資源の活用により改善することを目指し、「地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付き、地域の発展に貢献する人材」を育成することを目的とし、平成27年(2015年)9月に文部科学省の採択を受け、令和元年度(2019年度)までを事業期間として進めている。

初年度の平成27年度は事業の実施体制を整え、平成28年度の本格的な展開を経て、平成29年度と平成30年度は事業の安定的な実施と改善に取り組んだ。

この平成30年度事業の自己評価について、文部科学省に提出している「平成30年度大学改革推進等補助金調書」に記載した事業実施計画の4つの取組項目の実績に基づき、以下のとおり主な取り組み状況を確認し評価する。

#### 1 教育カリキュラムの整備・推進

地域志向教育カリキュラムである地域貢献特定プログラムの全23科目を実施し、延べ1,376人の受講があった。このうち全学共通系科目では「地域再生論入門」の履修者が大幅に増えるなど「広島を知る」科目の履修が増加した。新たに「地域実践演習」を開講し、専門教育科目として地域課題に34人が取り組んだ。アンケートを実施した科目では、受講後の地域への関心度が高い割合で向上したことが確認できた。地域貢献特定プログラムの実施が3年を経過し、初めてのプログラム修得者35人を認定した。

参加校間の単位互換科目を増やし、前年度を上回る7校から出願があった。

全教職員を対象にしたFD・SD研修を2回実施し、特に公立大学の地域教育の先進的な取り組みとして高知県立大学の実践に学んだ。

キャリア教育科目の見直しを行い、1年次からのキャリア形成について大学生活の目標設定、振り返り等を定期的に行うキャリアデザインシートの導入や、低学年次のインターンシップを推奨・強化するなど、キャリア形成支援体制を整え、2019年度からの実施に備えた。参加企業・自治体へのインターンシップについては、前年度と同程度の実績となった。

寄付講座として、「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」の2年目を実施し、学生11人が履修した。

以上、本COC+事業の中核となる地域貢献特定プログラムを充実した内容で実施し、キャリア教育の見直しも行った。地域志向教育や学生の成長を促すキャリア形成支援など、事業期間終了後につながる教育カリキュラムの拡充を行ったことから、本項目については計画を上回って実施したと評価する。

## 2 観光関連データベースの構築

平成 30 年度末までに約 60 万件という膨大なコンテンツ数の登録を完了し、「地域課題演習」や「観光情報学」での演習素材として活用を行った。利用規定やマニュアルを作成し、事業協働機関への閲覧を開始した。

また、データの収集にも取り組み、事業協働機関であるしまなみジャパンとの協働により、観光サイクリストの行動情報の調査事業を行い、地域観光の振興の一助とした。

以上のことから、本項目については概ね計画に沿って実施したと評価する。

## 3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進

学生による芸術作品の制作・展示により観光振興や活性化を行うアートプロジェクト「広島ニュートラベル」を、参加校や自治体と協働して実施した。実施地域を前年度の 5 地域から 6 地域に拡大して 10 件のプロジェクトを展開し、前年度を 1,000 人以上上回る 4,463 人の来場者があった。特に広島市での基町プロジェクトでは、空き店舗を改修した4つのスペースを活用した展示や交流活動を進めるとともに、新たなスペースの開設準備を行った。

廿日市市宮島の町家を活用した「サテライトハウス宮島」において、アートプロジェクトの制作や展示、地域実践演習、市民向け講座開催などを実施した。

参加校による協働研究事業を進め、8 校において観光に関する調査、地域講座の開催、地域活性化や地域支援に関する活動を実施した。また、前年度に引き続いて参加校 6 大学と比治山大学が協働して、観光に関する学生の研究・活動発表会を宮島において開催し、大学間の交流を深め、観光に関する教育研究の向上を図った。

学内の研究資金COC+研究枠や社会貢献プロジェクトにより、教員の地域研究の促進や社会貢献活動への支援を行った。

高校生の地域内進学を促進するサテライト講座を、引き続き柳井市において開講した。

以上、教育研究事業の全般にわたって安定した実施内容になっており、地域に設けた拠点施設（基町、宮島）でのプロジェクトや教育活動、参加校との協働事業も連携を深めながら着実に実施した。特にアートプロジェクトについて、実施地域を拡充して積極的に展開したことにより、来場者の増加を実現できた。これらのことから、本項目については計画を上回って実施したと評価する。

## 4 事業運営(実施体制の整備等)

「COC+フォーラム 2018」を長崎大学と共催し、観光情報学会との協働により開催した。観光情報に関する最新の動向を内容とし、観光事業者を中心とした参加者の満足度が高かった。

事業協働協議会の会議において、学生がアートプロジェクトや「地域課題演習」の活動成果を発表し、事業の推進状況への理解を高めた。

担当する教員について、事業協働地域調整担当、教育研究担当など 6 教員による推進体制を継続した。

専用ホームページによる情報発信、ニュースレターの発行なども適宜行った。

以上、安定した事業運営を行うとともに、COC+フォーラムを、同じくCOC+大学である長崎大学と共催し、大学間連携により地域の観光関係者のニーズに応える内容を提供したことから、本項目については計画を上回って実施したと評価する。

## 5 まとめ

以上のとおり、本事業の平成 30 年度の取り組みは、各事業項目を安定的、発展的に実施するとともに、事業の最終年度を翌年に控えて、将来的な継続性を意識した内容となっている。特に、事業の重要な柱である「教育カリキュラムの整備・推進」において、地域貢献特定プログラムに一定の成果を上げるとともに、キャリア教育の見直しに着手したことは、本COC+事業の目的である地域に貢献する人材の育成に向けた着実な前進と、事業期間終了後の継続への基礎固めが行えたものと評価する。

その上で、令和元年度はこの事業の最終年度となることから、事業期間終了後に向けた検討に当たっては、継続性や発展性の観点から、次の点に留意して取り組むことが望まれる。

- (1) 広島市のまちづくり(観光、水の都、基町や都心部の再生など)に学生が関わり、学習する機会を設ける。
- (2) 「地域課題演習」などに女子学生の積極的な履修が見られ、女性の意欲を活かし、就業も含めた地域社会への参画を後押しする教育姿勢が必要である。
- (3) アートプロジェクトは成果が出ており、こうした取組を継続するとともに、今後は芸術活動を具体的な収益や就業に結びつけていく教育も必要である。
- (4) 廿日市市宮島や広島市基町での実践的な学習を継続するとともに、特に、基町プロジェクトで行ってきた空き店舗の活用やギャラリーでの活動の存続が望まれる。
- (5) 地域の大学で育てた人材が地元に着定するよう、地元に着職する割合を増やすことが、改めて重要である。

以上





	④	<b>【インターンシップの実施】</b>  8月～2月 COC+参加企業・自治体へのインターンシップを引き続き実施。さらに新たに中国経済連合会と協力し、参加校と連携して低学年向けインターンシップを実施	b	事業協働機関へインターンシップの受入れを働きかけ、COC+校における平成30年度の参加学生数は前年度58人と同程度の59人となった。(広島地方の豪雨災害のボランティア活動に夏季のインターンシップを振り替えた学生がいたため。) 平成28年度から事業協働機関である中国経済連合会の人材育成専門部会において、企業関係者と地元企業におけるインターンシップを活用した学生の地元定着意識の醸成を図る方策を検討し、平成29年度にその具体化として、企業経営者と学生が懇談を通じて働く意義を考える事業を開始した。平成30年度はこの事業に51人の学生・教職員の参加があった。  <b>インターンシップの参加学生数が前年度と同程度の数を維持したことなどから、「b」と評価した。</b>	
	⑤	<b>【キャリア教育科目の見直し検討等】</b>  4月～12月 本学のキャリア教育科目の見直しを検討するとともに、経営者を招き、学生と意見交換する会の実施	a	COC+校において、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育てるためのキャリア教育の見直しを行った。1年次からキャリア形成について意識する機会を設定するため、新たな取り組みとして、大学生生活の目標設定、振り返り等を定期的に行うキャリアデザインシートを導入し、学生ハンドブックに記述させることとした。こうした見直しを含めて、低学年次のインターンシップを推奨・強化するキャリア形成支援体制を整え、2019年度からの実施に備えた。 COC+校で実施した「地元企業経営者パネル討論会」に69人の学生・教職員が参加し、学生と企業経営者との活発な意見交換があり、地域での企業経営の意義と課題について理解を深めた。  <b>キャリア教育科目の見直しを行い低学年のインターンシップの強化に取り組んだことから、「a」と評価した。</b>	
	⑥	<b>【寄付講座の実施】</b>  4月～3月 平成29年度に引き続き寄付講座の実施	a	広島が世界に誇れるモノづくりの拠点となる人材育成を目指し、「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を平成29年度に開講した。芸術学部を持つ本学ならではの取り組みであり、専攻を超えて、平成30年度は学生11人が実践的な学びや制作を行い、6人が最終作品発表会に臨んだ。学生は地元製造業のトップデザイナーからの厳しい指導を受け、自らのデザインが実社会で受け入れられるための方法論を学んだ。  <b>地域を代表する企業と協働し、本学の特長を活かした寄付講座により、学生の実践力を育成し充実した成果を挙げたことから、「a」と評価した。</b>	

H30 年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価
		記号	評価理由等	記号(SABCD)
取組2 観光関連データベースの構築と活用	事項 ⑦	【データの収集と活用】 4月～3月 (一社)しまなみジャパンと協働して、しまなみ海道サイクリングにおけるGPS位置データ(観光客の行動情報)の収集を行うとともに、観光関連データベースを「観光情報学」の講義・実習等で活用する。	b  事業協働機関である(一社)しまなみジャパンと協働し、しまなみ海道を訪れる観光サイクリストの行動情報をGPS位置データにより収集する調査事業を実施し、尾道市の観光振興の一助とした。 観光関連データについては、SNS情報を中心にコンテンツの登録を進め、平成30年度末現在で総数60万件以上の観光関連データの登録を完了させた。登録した観光関連データの教育研究での活用を進め、地域課題演習や観光情報学での演習素材とした。  事業協働機関との調査事業によるデータ収集やデータの活用を着実に行ったことから、「b」と評価した。	取組2 ⑦・⑧について  B  (3.2)
	⑧	【データの閲覧開始】 4月 参加校・企業・自治体に対するデータベースの閲覧を開始する。	b  観光関連データベースの利用マニュアルやセキュリティ運用のルールを策定し、事業協働機関向けのユーザーID/Passの配布準備を行い、8月から事業協働機関への閲覧を開始した。  ほぼ計画どおりに実施したことから「b」と評価した。	



			<p>プロジェクト全体を通して、学生・教員 140 人以上が参加し、作品の展示、交流等に来場した住民の数は前年度の 3,258 人を大幅に上回る 4,463 人となった。</p> <p>また、芸術学部の学生・教員・OB による地域貢献活動を、事業協働機関のホテルへの壁画制作など企業とのコラボレーションを 3 件、広島市動物公園へのモニュメント制作など地域とのコラボレーションを 2 件実施した。</p> <p><b>芸術学部をあげた取組として実施地域を積極的に拡大し、地域との連携により活動を進め、一般参加者も多く集めたこと、地域貢献活動を実施したことから「a」と評価した。</b></p>
⑫	<p><b>【参加校による協働研究事業】</b></p> <p>4 月～3 月 参加校による協働研究事業を平成 29 年度に引き続いて実施する。</p>	b	<p>参加校の学部構成や教育方針のもとに、COC+の対象地域において、多くの学生が地域活動に参加する事業を展開した。</p> <p>8 つの事業は以下のとおり(校名/地域/テーマ/実施形態)。</p> <p>①広島大学/呉市/コンテンツツーリズムを活用した地域活性化/調査研究 ②尾道市立大学/尾道市/アートプロジェクト(空き家再生)の実施/地域デザイン(広島市立大学と協働) ③広島経済大学/廿日市市等/学生による観光資源等の再発見と発信/調査研究 ④広島工業大学/廿日市市/宮島土曜講座/市民向け講座 ⑤広島国際大学/安芸太田町・呉市/中山間地域と島しょ部との交流による地域活性化プロジェクト/地域支援 ⑥広島修道大学/広島市/基町プロジェクト「もとまちカフェ」/地域交流(広島市立大学と協働) ⑦安田女子大学/同上/基町プロジェクト「グローバルキッチンプロジェクト」/食文化交流(広島市立大学と協働) ⑧広島商船高等専門学校/大崎上島町/高齢者健康調査/地域支援</p> <p><b>計画どおり実施したことから、「b」と評価した。</b></p>
⑬	<p><b>【参加校との合同発表会の実施】</b></p> <p>12 月 平成 29 年度に引き続き、観光に関する学生の研究・活動発表会を実施する。</p>	a	<p>学生の観光に関する学習・研究意欲を高め、地域を志向するマインドやネットワークの醸成を図るため、COC+の参加6大学と比治山大学(協力校)が合同で「観光に関する研究・活動発表会」を実施した。広島地域では唯一の観光に関連する大学間交流事業となっている。開催は平成 30 年 12 月 8 日と 9 日の 2 日間、会場は、廿日市市の広島経済大学の宮島セミナーハウス成風館。参加した学生は 64 人、教員は 21 人。</p> <p>発表されたテーマは 12 件。各大学のテーマ設定は、地域への関わり方や分析や考察の方法に特徴があり、多彩なプレゼンテーションが行われた。併せて宮島の景観保存や空間特性などの現地講座と視察を実施した。参加学生のアンケートとして、96%が「他大学との交流により学習・研究上の刺激を受けた」、97%が「広島地域の関心を高めた」と回答した。</p> <p><b>観光をテーマに、充実した教育研究交流が実施できたことから、「a」と評価した。</b></p>
⑭	<p><b>【サテライト講座の実施】</b></p> <p>9 月～12 月 参加自治体と協働してサテライト講座を実施する。</p>	b	<p>事業協働地域の若い世代の人口流出を防ぎ、地元への定着をいかに図るかが課題となっており、その対策の一つとして、高校生の地域内への進学を促し、ひいては地域内での就職につながるものとして企画し、柳井市と協働して実施した。講座は 3 回開催し、広島市立大学の教員が担当した(内容はアートディレクション、歩行による個人認証の情報技術、アフリカ地域研究入門)。対象は柳井市広域圏 1 市 4 町の 7 校の高校生と保護者で、平成 30 年度は 53 人が参加した。</p> <p>広島地域に所在する各大学の説明を行い、地域内進学を促した。</p> <p><b>計画どおり実施したことから、「b」と評価した。</b></p>

H30 年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価	
		記号	評価理由等	記号(SABCD)	
取組4 事業運営 (実施体制の整備等)	⑮	【ニュースレターとホームページによる広報】 9月・3月 事業広報のためニュースレターを発行(2回)する。 4月～3月 ホームページを更新し情報提供に努める。	b	ニュースレターの発行は、平成30年12月に第9号(地域課題演習、学生の観光研究活動発表会等)、平成31年3月に第10号(アートプロジェクト、地域貢献特定プログラム等)をA4版4ページで発行し、配布した(各3000部)。 事業活動の紹介として大学広報誌やパブリシティを活用するとともに、COC+の専用ホームページを随時更新し情報提供に努めた。  ほぼ計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	取組4 ⑮～⑲について  B (3.8)
	⑯	【協働協議会の開催】 1月 COC+事業協働地域協議会を開催(1回)する。	a	事業協働協議会の会議を、平成31年1月24日に広島市立大学サテライトキャンパスにおいて開催した。協議内容は、平成30年度事業の実施状況、平成31年度の事業計画案、平成29年度の外部評価結果の報告であり、事業の進捗状況と今後の展開等について情報を共有し意見の交換を行った。参加は26の協働機関から43人であった(平成29年度は31の協働機関から48人)。 併せて、地域活動の報告として、アートプロジェクト(芸術学部金属造形の学生による宮島金工プロジェクトの実施状況と作品展示)、地域課題演習(国際学部及び芸術学部の学生による三原市佐木島での演習内容と観光に関する提案)の2件の発表を行った。  協働協議会の会議に加えて、学生の活動発表を実施したことから、「a」と評価した。	
	⑰	【COC+フォーラムの開催】 1月 参加校・企業・自治体に呼びかけCOC+フォーラムを開催する(1回)。	a	COC+フォーラム2018を、長崎大学との共催、観光情報学会等の後援により、平成30年11月16日に広島市総合福祉センターホールにおいて開催した。 テーマは「ICTによる観光情報を活用した観光振興」とし、観光業界の課題である科学的な施策立案やデータによる経営イノベーションなど、業務改善の参考となる先駆的な4つの事例を紹介して知見を共有した。参加者は自治体、観光事業者、大学など67人。アンケートでは、88%の参加者が、満足度が高いと回答した。  長崎大学との共催により実施し、観光情報に関する最新の動向を内容とし、参加者の満足度も高かったことから、「a」と評価した。	
	⑱	【担当する教員等の雇用】 4月～3月 事業の調整、実施、進行管理にあたるCOC+を担当する教員6名を継続雇用する。	b	平成29年度に引き続いて、COC+推進コーディネーター(特任教授)1名、教育研究担当特任教授1名、事業協働地域調整担当特任准教授1名、教育研究担当特任助教1名、観光関連データベース担当特任助教1名、アートプロジェクト担当特任助教1名を雇用し、全体で6名の体制で事業を推進した。  計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	
	⑲	【評価委員会による評価の実施】 6月 COC+外部評価委員会を開催し、平成29年度事業の評価と評価報告書を作成する。	b	COC+外部評価委員会を、平成30年7月18日に開催した。 平成29年度事業の評価結果は、『事業を安定的に推進するとともに、従前の課題を解決しながら積極的に事業の改善や新しい企画に取り組んだ。特に、事業の重要な柱である「教育カリキュラムの整備・推進」と「観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進」において、事業内容を拡充して実施した。こうした、当初計画の着実な実施及び付加的な実施により、平成30年度以降の取組において、さらに事業全体の熟度を高めることに弾みを付けたと評価する』として、総合評価は「A 計画を上回った実績を挙げている」とされた。 また、平成29年度の事業報告書を作成し、外部評価委員会に提出した。  開催時期を除けば、計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	

## Ⅱ 令和元年度事業及びCOC+事業の全体の評価(書面審査)

### 1 評価の方法と結果

#### (1)外部評価の対象

- ア 令和元年度事業の評価
- イ 平成 27 年度から令和元年度までの COC+事業の全体評価

#### (2)外部評価の進め方(書面審査)

ア 令和元年度事業の評価  
事務局から資料を送る ⇒ 委員による4つの取組項目別評価(記入用紙をメール返送) ⇒事務局が、各委員の評価記号を基に、表 1 から表 3 までの手順で算出し、表 4 に当てはめて総合評価の記号を出す。

#### イ COC+事業の全体評価

事務局において、表 5 により、平成 27 年度から平成 30 年度までの評価点(評価比率を乗じた後の評価点)に、今回の令和元年度事業の取組項目別評価点を加えて平均点を算出し、表 4-2 に当てはめてCOC+事業の全体評価の記号を出す。

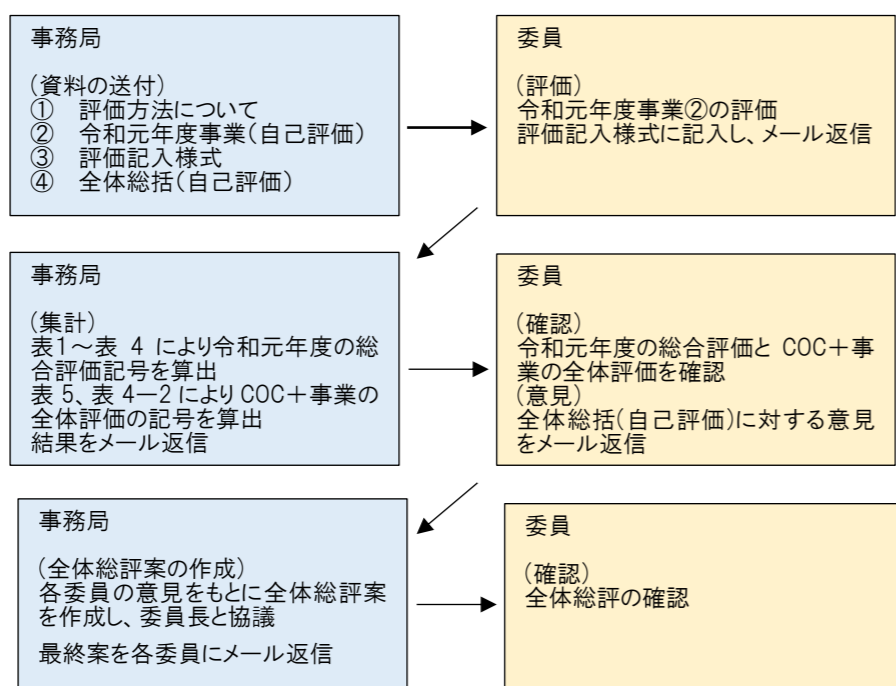
事務局から各委員にこの結果をメールで連絡 ⇒ 各委員が確認を行い、COC+事業の全体評価の記号とする。

※ 総評(文章)については、COC+事業の全体総評として一つにまとめる。

全体総評の作成:

COC+事業全体についての広島市立大学の全体総括(自己評価)を踏まえ、各委員の意見(メール)を集約したうえで、委員長への一任により文章の調整を行い、外部評価委員会の全体総評とする。

#### 【手順】



### 2 令和元年度事業の評価

#### (1)取組に対する個別評価

文部科学省に提出したCOC+事業実施計画に基づき、4つの取組の20の事項について広島市立大学が自己評価を行い、その上で外部評価委員が4つの取組ごとに個別評価を行う。

評価は、いずれも以下の5段階で行う。

#### ア 広島市立大学の自己評価

- 「s」計画を大きく上回った実績である。
- 「a」計画を上回った実績である。
- 「b」計画に沿った実績である。
- 「c」計画を下回った実績である。
- 「d」計画を大きく下回った実績である。

#### イ 外部評価委員の評価

- 「S」=5点 計画を大きく上回った実績である。
- 「A」=4点 計画を上回った実績である。
- 「B」=3点 計画に沿った実績である。
- 「C」=2点 計画を下回った実績である。
- 「D」=1点 計画を大きく下回った実績である。

#### (2)総合評価の方法

##### ア (取組項目ごとの評価)

各委員による1~4の取組項目ごとの個別評価の点数(5~1)を一覧表にする(表1)。表1の個別評価点の平均値を委員会としての取組項目の評価点とする。

##### イ (総合評価点の集計)

取組項目ごとの評価点を、表2の評価比率に応じた加重平均(評点×評価比率の合計)した結果を集計する(表3)。

##### ウ (総合評価の決定)

イの集計結果をもとに、各委員による確認を行い、表4の評価基準にあてはめて総合評価の記号とする。

表1(取組項目ごとの評価)

取組項目	委員の個別評価点と平均値		平均値を委員会の評価点( $\alpha$ )とする
1 教育カリキュラムの整備・推進	5点	4.2点	4.2点
	4		
	4		
	4		
	4		
2 観光データベースの構築と活用	4	3.8点	3.8点
	3		
	4		
	4		
	4		
3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	5	4.2点	4.2点
	4		
	3		
	4		
	5		
4 事業運営(実施体制の整備)	4	4.0点	4.0点
	3		
	4		
	4		
	5		

表2(評価比率)

取組項目	評価比率( $\beta$ )
1 教育カリキュラムの整備・推進	35%
2 観光データベースの構築と活用	20%
3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	35%
4 事業運営(実施体制の整備)	10%

表3(集計結果)

取組項目	評点( $\alpha$ ) 委員会としての評価点	評価比率( $\beta$ )	$\alpha \times \beta$
1 教育カリキュラムの整備・推進	4.2	35%	1.47
2 観光データベースの構築と活用	3.8	20%	0.76
3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	4.2	35%	1.47
4 事業運営(実施体制の整備)	4.0	10%	0.40
計			4.10

表4(R元年度 総合評価の基準)

評価の基準値	総合評価の記号	
$4.5 < X$	S	計画を大きく上回った実績を挙げている。
$3.5 < X \leq 4.5$	A	計画を上回った実績を挙げている。
$2.5 < X \leq 3.5$	B	計画に沿った実績となっている。
$1.5 < X \leq 2.5$	C	計画を下回った実績となっている。
$X \leq 1.5$	D	計画を大きく下回った実績となっている。

### 3 COC+事業の全体評価

#### (1) 取組に対する個別評価及び全体評価の方法

ア(各年度の取組項目別評価点の集計)

平成27年度から令和元年度までの評価について、取組項目別評価点の平均を算出し、集計する。(表5)

イ(全体評価の決定)

上記アの集計を基に、表4-2の評価基準にあてはめた結果を、各委員にメールで確認を行い、全体評価の記号とする。

表5 COC+事業期間の評価の集計

取組項目	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	平均
1 教育カリキュラムの整備・推進	1.33	1.47	1.58	1.47	1.47	1.464
2 観光データベースの構築と活用	0.56	0.64	0.70	0.64	0.76	0.66
3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	0.91	1.47	1.40	1.54	1.47	1.358
4 事業運営(実施体制の整備)	0.30	0.30	0.35	0.38	0.40	0.346
計	3.10	3.88	4.03	4.03	4.10	3.828



表4-2 (COC+事業の全体評価の基準)

評価の基準値	全体評価の記号	
4.5 < Y	S	計画を大きく上回った実績を挙げている。
3.5 < Y ≤ 4.5	A	計画を上回った実績を挙げている。
2.5 < Y ≤ 3.5	B	計画に沿った実績となっている。
1.5 < Y ≤ 2.5	C	計画を下回った実績となっている。
Y ≤ 1.5	D	計画を大きく下回った実績となっている。

(2)全体総評の作成

COC+事業全体についての広島市立大学の全体総括(自己評価)を踏まえ、これに対する各委員の意見を集約して外部評価委員会の全体総評とする。

【全体総評】

<p><b>評価の記号</b></p> <p>A: 計画を上回った実績を挙げている。</p>
<p><b>総評</b></p> <p>本事業は、広島広域都市圏及び尾道市の課題である人口流出を、観光資源の活用により改善することを目指し、「地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付き、地域の発展に貢献する人材」を育成することを目的とし、平成27年(2015年)9月に文部科学省の採択を受け、令和元年度(2019年度)までを事業期間として進めてきた。平成27年度は事業の実施体制を整え、平成28年度の本格的な展開を経て、平成29年度と平成30年度は安定的な実施と改善に取り組み、最終年度の令和元年度には事業の実施及び取りまとめを行い、事業期間終了後の継続に向け検討を行った。</p> <p>この事業の5年間の実施成果について、事業実施計画の4つの取組項目ごとに、以下のとおり確認し評価する。</p> <p><b>1 教育カリキュラムの整備・推進</b></p> <p>(1)地域貢献特定プログラムの実施</p> <p>地域に貢献する人材育成を目指す教育カリキュラムとして、全学共通系科目と専門教育科目の地域志向科目群で構成する「地域貢献特定プログラム」を新たに開設した。平成28年度の開講時は14科目でスタートしたが、平成29年度から23科目に拡充した。1年次から4年次まで「広島を知る」「広島を感じる」「広島を問う」「広島に挑戦する」という4つのステップで地域での演習や地域に関する専門分野の学習を行い、地域を理解し、総合的視野からの企画力やネットワーク形成力を養い、専門性を発揮する能力を育成することを目標として実施した。</p> <p>平成28年度入学生が3年次までに規定単位数(8単位)を満たしたプログラム修得者は36人であり、さらに4年次において地域に関する卒業論文・研究・制作を行い「ひろしま地域リーダー」と認定された学生は17</p>

人となった。平成29年度入学生の3年次でのプログラム修得者数は14人となった。また、科目全体の履修状況は延べ数で平成28年度が723人、平成29年度が1167人、平成30年度が1376人、令和元年度が1256人であった。アンケートの結果、いずれの年度も約8割の学生が受講後において地域への関心を高めたと回答しており、地域志向マインドの醸成についての効果が認められた。

(2)参加大学との単位互換の実施

平成28年度に、協働協議会の教育プログラム開発委員会、同ワーキング会議において協議し、9校による「COC+事業参加大学における単位互換に関する協定」を締結し、平成29年度から開始した。科目提供校は7校であり、地域志向科目22科目で構成した。出願学生は3年間で30人となった。一般的に、単位互換においては学校間の距離や授業時間割の相違がある中で、集中講義科目を中心に設定することにより一定の履修者数を確保した。

(3)全学COC+研修会の開催

FD・SD一般研修として、5年間で8回開催し、参加教職員数は平均で64人であった。講師は自治体やCOC+参加大学、地域教育に実績のある公立大学から招いて、各回のテーマを設定した。地域社会の課題対応の必要性や地域志向教育のあり方について情報を共有し、現状の改善について考える機会とした。また、研修会に出席できなかった教職員のために学内ウェブサイトに動画を配信し、各自が後日視聴できる体制とした。

(4)インターンシップの実施

協働協議会の機関におけるインターンシップの依頼を進め、受け入れ企業・団体数が平成27年度の58機関から令和元年度の151機関に増え、学生の参加者数も44人から77人へと約1.8倍に増加した。また、地元就職したOB・OG体験談報告会や、平成29年度から新たに開始した地元経営者パネル討論会などにより、地域企業の理解促進に努めた。これらにより、就職意向調査(平成29年度入学生)において、「卒業・終了後、広島市を中心とした地域で働きたいか」の問いに、「非常にそう思う」「そう思う」と答えた学生が、入学直後に23%であったものが、3年次では37%に上昇した。

(5)キャリア教育の見直し

平成30年度に、既存のキャリア形成支援科目や正課外学修活動の内容と履修年次の見直しを行い、低学年時からの将来の職業選択についての構想や学修、インターンシップ、就職活動への実践的な指導・学習に力点を置いた科目構成とし、令和元年度から実施した。

(6)寄付講座の実施

平成29年度から、寄付講座「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を実施し、3年間で40人が受講した。地元自動車メーカーのマツダ(株)の第一線のデザイン担当者や本学教員の指導の下、芸術学部の専攻分野や学年を超えた学生の履修により、本学ならではの創造・表現における実践的な教育、人材育成を実施した。

**2 観光関連データベースの構築と活用**

(1)データの収集と活用

収集に関しては、平成27年度に収集データの仕様を構築し、平成28年度において、収集したサンプルデータを用いた稼働・運用試験を行い、平成29年度において、全文検索機能やセキュリティ機能の追加、データ入力簡易化などの機能拡張を行った。平成30年度末までに約60万件という膨大なコンテンツ数の収集・

登録を完了した。

活用に関しては、平成 30 年度において、登録したデータにより、「地域課題演習」や「観光情報学」での実践的な学習に活用し、追加したコンテンツである「行動情報」について、各種演習で収集した GPS データや、尾道市の(一社)しまなみジャパンと協働した「しまなみ観光サイクリストの行動情報収集プロジェクト」で収集した行動履歴データ等を登録した。

また、データを活用した調査研究として、しまなみサイクリスト等観光客の行動経路データに基づく分析(3 件)、アンケートデータの解析に関するもの(1 件)、テキストデータの分析による観光客の立ち寄り先の探索(1 件)、観光統計データを用いた観光消費行動や経済効果の分析に関するもの(2 件)を実施した。

#### (2)データの閲覧

データベースの協働機関での活用について、平成 29 年度に利用規約・マニュアルを作成し、平成 30 年度から参加大学への利用の呼びかけを行うとともに、順次大学以外の協働機関においても閲覧利用を進めた。令和元年度において、システム筐体の学内移設を計画し、クラウド運用から学内運用への切り替えを行った(12 月)。

### 3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進

#### (1)COC+特色研究等の実施

平成 28 年度から、本学の学内競争的研究資金として「COC+特色研究」及び「社会連携プロジェクト」を実施し、学生が自ら選択した地域課題やテーマに基づき実施する社会貢献活動を支援する制度である「市大生チャレンジ事業」を実施した。4 年間の累計の採択件数は、「COC+特色研究」10 件、「社会連携プロジェクト」22 件、「市大生チャレンジ事業」14 件となり、地域貢献に関する研究・連携・活動の領域を広げた。

#### (2)サテライトハウス宮島等の運用

平成 28 年 10 月から廿日市市宮島の古民家(町家)を借り上げ、建物の一部を改修した上で、平成 29 年 6 月から「広島市立大学COC+宮島教育研究施設」(通称、サテライトハウス宮島)として開設した。世界的な観光地に立地し、宮島をテーマにした作品制作や展示、市民講座・セミナーの開催、フィールドワークの拠点として、本学及び参加校において多彩な活用を行った。

また、広島市基町地区において基町プロジェクトとしての活動拠点「M98」を設け、学生による空き店舗のリニューアルによりスペースを増設し、活発な活動を行った。

#### (3)アートプロジェクトの実施

本学芸術学部が中心となって、アートやデザインによる表現力によって、事業協働地域の資源や観光のポテンシャルを活性化、顕在化することを目標とし、併せて教育研究事業として学生が地域に入って取材、体験、制作を進めるプロセスの中で、作品に込めた思いとともに、学生自らが地域への発見や気づきを得ること目的として実施した。統一テーマを「広島ニュートラベル」とし、瀬戸内、広島市都市部、中山間地の各地域において、アート活動により人をいざない交流を進めることをコンセプトに、参加大学や地域と協働しながら、作品制作、展示、ワークショップ、地域活動等を展開した。

実施地域は広島市、廿日市市、尾道市、東広島市、呉市、柳井市、北広島町、安芸太田町の 8 市町。芸術学部の全 10 専攻の学生・教員が参加し、実施したプロジェクト数は 5 年間で延べ 35 プロジェクト、展示会場を訪れた地域住民等の参加者は累計で 1 万 7419 人の多くを数えた。

#### (4)参加校による協働研究事業

参加校 8 校による協働研究事業は、COC+事業の趣旨のもと、各校の学部構成や教育方針、これまでの地域貢献活動の経験を踏まえながら、可能な範囲で連携しながら地域での教育研究等のプログラムを行った。内容としては、観光に関連する調査・企画については広島大学と広島経済大学の 2 校、地域に関する講座の開催が広島工業大学、アートプロジェクトが尾道市立大学、地域活性化や地域支援に関する活動が広島国際大学、広島修道大学、安田女子大学、広島商船高等専門学校の4校であった。

#### (5)参加校との合同発表会の実施

学生の観光への学習・研究意欲を高め、地域を志向するマインドの醸成を図るため、本学が呼びかけを行い、参加校の広島大学、広島経済大学、広島工業大学、広島修道大学、安田女子大学と事業協力校の比治山大学が合同で、平成 29 年度から「大学連携による学生の観光研究・活動発表会」を実施した。地域観光に關した学際的な大学間交流事業として、多彩な研究・活動成果が披露され、宮島での現地学習や交流会等を組み合わせたプログラムを行った。3 年間の累計で 36 のテーマが発表され、参加学生・教員は延べ 255 人となった。アンケートでは学生の 9 割以上が「学習・研究上の刺激を受け、広島地域の観光について関心を高めた」と回答した。

#### (6)サテライト講座の実施

COC+事業協働地域在住の高校生生の地域内進学を促進することを目的として、サテライト講座を実施することとし、要請のあった柳井市において、平成 29 年度から行った。高校生向けの講座を各年度 3 回開講し、併せて広島地域の大学の説明と進学のPRを実施した。高校生・保護者等の参加者は 3 年間 9 講座の累計で 129 人となった。

### 4 事業運営等

#### (1)ニュースレターとホームページによる広報

事業協働地域内外に情報提供を行うため、ニュースレター「つながり通信」(A4 版 4 ページ、各 3,000 部)を通巻 12 号まで発行した。事業活動紹介パンフレット「地域に目覚める」(A4 判 8 ページ、5000 部)を平成 29 年度に発行した。専用ホームページを平成 28 年 6 月に開設し活動内容の情報発信に努め、総閲覧数は 57046 件となった。また、アートプロジェクトやフォーラムなど各事業のチラシ等を作成・配布した。その他プレスリリースを適宜行い新聞等で報道された。

#### (2)協働協議会の開催と事業報告

広島広域都市圏と尾道市の 25 自治体、参加大学、企業・団体の全 67 機関で構成する「観光振興による地域創生に向けた人材育成事業協働協議会」(平成 27 年 12 月設立)の会議を各年度 1 回開催した。当該年度の事業報告を行い、翌年度の事業計画等を協議し、事業の進捗状況を共有した。会議の出席は、平成 27 年度 66 機関、平成 28 年度 37 機関、平成 29 年度 31 機関、平成 30 年度 26 機関、令和元年度 23 機関であった。

#### (3)COC+フォーラムの開催

事業の取組を周知し、地域の創生に関する課題や知見を共有するため、COC+フォーラムを各年度 1 回開催した。事業協働機関をはじめ観光事業関係者や広く一般市民に呼び掛けて開催し、参加者数は、平成 27 年度 220 人、平成 28 年度 174 人、平成 29 年度 90 人、平成 30 年度 67 人、令和元年度 90 人であった。

#### (4)担当する教員の雇用

事業の担当教員について、平成 27 年度に特任助教 2 名(観光関連データベース担当、アートプロジェクト担当)を雇用し、平成 28 年 4 月に特任教授 2 名(事業協働地域調整担当、教育研究担当)、特任准教授 1 名(事業協働地域調整担当)、8 月に特任助教 1 名(教育研究担当)を雇用し、合わせて 6 名とし、令和元年度までこの体制を継続して事業を推進した。

#### (5)外部評価委員会による評価の実施

「観光振興による地域創生に向けた人材育成事業外部評価委員会」(COC+外部評価委員会。委員は事業協働機関以外の教育、調査研究、観光、芸術の各分野の有識者 5 名で構成し、委員長は神戸市外国語大学船山仲他名誉教授)により、各年度の実施状況についての評価がなされた。評価結果は、平成 27 年度事業が「計画に沿った実績となっている」とされ、平成 28 年度から平成 30 年度まではいずれの年度の事業も「計画を上回った実績を挙げている」とされた。併せて各年度の事業報告書を提出した。

#### (6)補助期間終了後の継続計画

補助期間終了後の継続計画を作成した。内容を地域志向教育カリキュラム、観光関連データベース、アートプロジェクト等の教育研究事業、インターンシップ、事業運営等に区分し、それらを 20 項目に分けて検討を行い、拡充して継続するもの 5 項目、維持して継続するもの 10 項目、終了すもの(必然的に終えるものを含む)は 5 項目とし、事業の大部分を継続することにしており、その内容を評価する。

主要な事業の継続計画の内容を次のとおり確認した。

地域志向教育カリキュラムについて、科目構成を見直し単位修得認定者の増加を図るとともに、新たに「地域志向教育特別委員会」を設置して検討を進める。

観光関連データベースについて、データの管理を情報科学部に移管し教育研究に活用する。

アートプロジェクト等の教育研究事業について、アートプロジェクトは「地域展開型芸術プロジェクト」として地域での実践的な教育を推進し、大学連携による観光研究・活動発表会は参加大学・教員の持ち回りにより開催を継続する。

インターンシップについて、地元企業への学生の参加を引き続き促進し、見直しを行ったキャリア形成支援科目に新たな科目を追加して強化する。

学内運営組織について、既存の学内委員会において継承する。地域貢献人材育成等を所掌する「総合教育センター(仮称)」の設置を検討する。また、担当する人員について、現行の教員 6 名体制から、教員 4 名・事務職員 1 名の体制に移行し継続する。

## 5 まとめ

教育カリキュラムについて、新たに「地域貢献特定プログラム」を開設して地域志向教育を積極的に進め、学生の地域への関心や学習意欲を高めた。アートプロジェクトによって芸術教育での地域展開を広範に実施して成果を上げた。さらに、地元企業へのインターンシップの強化やキャリア形成支援科目の見直し等を行った。就職意向調査においても、広島地域への就職を意識する学生の割合が増加した。こうしたことから、公立大学としての役割である地域人材育成教育の今後の進展に向け、基本的な枠組みを構築することができたと評価する。

大学間連携について、広島県内の多くの大学等との協働により、観光に関する研究活動成果の合同発表、

各校の特色を生かした地域での教育活動、各校の地域志向科目による単位互換等を実施し、連携を深めた。

地域との連携について、以下に列挙するとおり多彩な事業を実施した。地域課題演習や地域実践演習といったカリキュラムによる地域の現場での活動、アートプロジェクトによる地域での制作や展示を通じた交流、観光関連データベースに基づく地域との共同調査研究、COC+特色研究や社会連携プロジェクト等による地域課題へのアプローチ、サテライトハウス宮島や基町プロジェクト「M98」の地域教育研究拠点の運営、地域に出向いたサテライト講座の実施。これらにより、大学と地域との新たな協力関係や多様な連携が生まれた。

事業運営について、事業協働協議会や学内組織による推進、全学研修会の実施、広報活動やフォーラムの開催等を行うことにより、総じて上記の事業成果を実現した。

以上、文部科学省に提出した当初の計画調書の項目について着実に実行するとともに、追加的な事業も積極的に行い、計画以上の取り組み実績となっている。本COC+事業の目的である地域に貢献する人材の育成に向け、5 年間の起動期間ととらえるならば、事業終了後の継続に向けての十分な基礎づくりが行えており、評価するとともに、今後の更なる努力・進展を期待する。

4 令和元年度取組項目別評価

s: 計画を大きく上回った実績である。  
 a: 計画を上回った実績である。  
 b: 計画に沿った実績である。  
 c: 計画を下回った実績である。  
 d: 計画を大きく下回った実績である。

S: 計画を大きく上回った実績である。  
 A: 計画を上回った実績である。  
 B: 計画に沿った実績である。  
 C: 計画を下回った実績である。  
 D: 計画を大きく下回った実績である。

R 元年度実施計画		公立大学法人広島市立大学による自己評価		外部評価委員の評価
		記号	評価理由等	記号(SABCD)
取組1 教育カリキュラムの整備・推進	⑧	<b>【地域貢献特定プログラムの実施】</b> 4月～3月 平成27年度に策定したCOC+教育プログラム(地域貢献特定プログラム)の「広島を知る」科目の「広島の観光学」、「ひろしま論」、「広島の産業と技術」、「創作と人間」、「NPO論」、「地域再生論入門」、「広島を感じる」科目の「地域課題演習」、「広島を問う」科目の「地域再生論」、「非営利組織論Ⅰ、Ⅱ」、「交通論」、「スポーツ文化経営論」、「フィールドワーク論」、「経営史」、「観光情報学」、「インターンシップ」、「アートマネジメント概論」、「造形応用研究Ⅰ、Ⅱ」、「地域実践演習」を引き続き実施。 本年度は、「地域課題演習」の対象年次を1～2年次に広げる(前年度まで2年次対象)とともに、新たに「広島に挑戦する」科目の「卒業論文」、「卒業研究」、「卒業制作」を開講する	a 「広島を知る」科目では、「地域再生論入門」「広島の産業と技術」「広島の観光学」「ひろしま論」など6科目において、履修者は864名となった。 「広島を感じる」科目では、「地域課題演習」において6つのテーマを実施し、54名が履修して現地での活動や考察を通じて地域の魅力や課題についての理解を深めた。 「広島を問う」科目では、3学部において「地域実践演習」を引き続き開講し、地域の課題解決を目指して合計11名が取組んだ。このほかの専門教育科目として「地域再生論」や「観光情報学」「アートマネジメント概論」など計16科目を開講し、履修者は340名となった。 以上の23科目に延べ1,256名の履修があり、総合的に地域社会への理解を深めた。  履修後のアンケート結果では、地域への関心が「非常に高まった」「高まった」と答えた学生が「地域課題演習」で92.9%、「地域再生論入門」で88.1%となるなど、アンケートを実施した主要7科目の平均では79.9%となり、地域志向マインドの醸成に一定の成果が確認できた。 地域貢献特定プログラムの単位修得者(3年次に演習を含む8単位以上修得)が14名となった。 また、すでに地域貢献特定プログラムの単位を修得し4年次において地域に関する卒業論文、研究、制作に取り組んだ17名を「ひろしま地域リーダー」として認定した。 今後、地域貢献特定プログラムの修得者数を増やす対応として、科目構成と認定要件の見直しを行った。令和2年度入学生から実施する。  以上、各科目において、学生の地域志向マインドの醸成に資するよう十分に意を用いて実施し、アンケート結果においても成果が確認できた。また、令和2年度以降において単位修得者を増やす対策を講じたことから、「a」と評価した。	取組1 ①～⑥について          A  (4.2)
	⑨	<b>【参加大学との単位互換の実施】</b> 4月～3月 平成28年度に参加校間で締結した、地域志向科目の単位互換に関する協定に基づき、単位互換を実施する。	a 地域志向科目の提供校は前年度より1校減って6校であったが、提供された科目は4科目増えて全22科目となり、履修者は12名となった。履修科目は広島大学の「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」、広島経済大学の「広島を学ぶ」、広島市立大学の「創作と人間」の3科目であった。 令和2年度以降の実施について調整を行い、COC+単位互換科目の22科目中16科目を(一社)教育ネットワーク中国の単位互換事業において開講することとした。  以上、科目数を増やし出願者も増えたこと、令和2年度以降も提供科目の7割以上を継続するよう調整したことから、「a」と評価した。	
	⑩	<b>【全学COC+研修会の開催】</b> 9月・3月 本学の全教職員を対象とした本事業の実施に関するファカルティ・ディベロップメント(FD)として、全学COC+研修会(2回)を開催する。	b 全学FD・SD研修会の開催により、学内でのCOC+の事業推進状況や地域教育への理解を深めた。参加できなかった教職員に対して、研修の動画が学内Webで常時視聴ができる態勢とした。 第1回は、令和2年1月10日に開催し、74名が参加した。「横浜市立大学におけるCOC事業の成果と地域貢献の取組・人材開発」をテーマに、COC事業終了後の地域人材育成や地域貢献センターの取組を通して、公立大学としての地域社会との関わり的重要性について学んだ(講師は横浜市立大学COC事業統括責任者の国際教養学部鈴木伸治教授)。 第2回は、令和2年3月18日を開催日とし「COC+事業の報告と終了後の継続について」をテーマに、社会連携センターの國本特任教授が報告をする予定であったが、新型コロナウイルスの影響により延期し、令和2年度のできるだけ早期に開催することとした。  以上、2回目の開催予定を延期したが、1回目を計画どおりの内容で実施したことから、「b」と評価した。	

⑪	<p><b>【インターンシップの実施】</b></p> <p>8月～2月 COC+参加企業・自治体へのインターンシップとともに、中国経済連合会と協力し、参加校と連携して低学年向けインターンシップ及び教職員向け企業訪問を引き続き実施する。</p>	S	<p>学生に事業協働機関へのインターンシップの参加を呼びかけ、COC+校における令和元年度の参加学生数は前年度59名から77名に増加し、目標値の70名を上回った。</p> <p>事業協働機関である中国経済連合会と協働して平成29年度から企業経営者と学生が懇談を通じて働く魅力を知る事業を行っている。令和元年度の参加企業は15社であり、主に教職員向けの企業情報の収集・訪問を実施した。</p> <p>また、平成29年度入学生に対して、入学時と3年次に就職意向調査を実施した結果、「広島を中心とした地域で働きたいか」という問いに、入学時は23%が「非常にそう思う」「そう思う」と回答し、3年次には37%が同様に回答した。地元への就職を希望する学生の割合が14ポイント上昇しており、インターンシップや地域志向教育の一定の効果を確認することができた。</p> <p>以上、インターンシップの参加学生数が目標値を上回ったこと、また、就職意向調査において地元就職を希望する学生が、3年次に顕著に上昇していることから、「S」と評価した。</p>	
⑫	<p><b>【キャリア教育科目の見直し検討等】</b></p> <p>4月～3月 前年度見直したキャリア教育科目について、「キャリアデザイン i、ii」を新たに実施し、令和元年度入学生の2年次から開講となる「キャリアサポートベーシックA、B」の開講準備を進めるとともに、経営者を招き、学生と意見交換する会を引き続き実施する。</p>	a	<p>COC+校においてキャリア形成支援科目の大幅な見直しを行い、「キャリアデザイン I・II」「キャリアサポートベーシックA・B」を新たに開講し、低学年時から、将来の職業選択についての構想や学修、インターンシップ、就職活動への実践的な指導に力点を置いた指導を実施した。さらに、令和2年度にキャリア形成支援科目に「インターンシップ・ベーシック」追加をするための準備を行った。</p> <p>COC+校で実施した「地元企業経営者パネル討論会」に83名の学生・教職員が参加し、学生と企業経営者との活発な意見交換があり、地域での企業経営の意義と課題、求める人材像について理解を深めた。</p> <p>以上、新しいキャリア形成支援科目を開講して、低学年のインターンシップ等の強化に取り組み、地元企業を知る討論会を開催し多数の教職員が参加したことから、「a」と評価した。</p>	
⑬	<p><b>【寄付講座の実施】</b></p> <p>4月～3月 マツダ(株)による寄付講座を芸術学部において引き続き実施する。</p>	a	<p>広島が世界に誇れるモノづくりの拠点となる人材育成を目指し、「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を平成29年度に開講した。芸術学部を持つ本学ならではの取り組みであり、3年目となる令和元年度は、専攻を超えて学生11名が実践的な学びや制作を行い、8名が最終作品発表会に臨んだ。学生は地元製造業のトップデザイナーからの厳しい指導を受け、自らのデザインが実社会で受け入れられるための方法論を学んだ。</p> <p>また、令和2年度に寄付講座を1科目増やすための調整を行った。講座名は(公財)マツダ財団による「地域ボランティア活動」。</p> <p>以上、地域を代表する企業と協働し、本学の長を活かした寄付講座により学生の実践力を育成したこと、また、令和2年度に寄付講座を増設する準備を行ったことから、「a」と評価した。</p>	

R 元年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員の評価
		記号	評価理由等	記号(SABCD)
取組2 観光関連データベースの構築と活用	事項 ⑭	<b>【データの収集と活用】</b> 4月～3月 観光関連データベースを「観光情報学」の講義・実習等で引き続き活用する。 4月～12月 (一社)しまなみジャパンと協働して収集したしまなみ海道サイクリングにおける GPS 位置データ(観光客の行動情報)を利用して音声ガイドアプリによる IOT 事業を提案する。 ”	a 観光関連データベースは、SNS 情報を中心にコンテンツの登録を進め、平成 30 年度末までに総数 60 万件以上のデータの登録が完了している。 登録した観光関連データの教育研究での利活用を進め、地域課題演習や観光情報学での学習や情報科学研究科での情報解析素材としての実践的な応用研究を行った。 平成 30 年度に行った、しまなみ海道を訪れる観光サイクリストの行動情報を GPS 位置データにより収集する調査や、岩国市での錦帯橋エリアでの観光ガイドシステムの実証実験を踏まえ、スマートフォンの観光音声ガイドアプリの提供により自動的にサイクリストの位置情報を取得する仕組みを、事業協働機関である(一社)しまなみジャパンに提案した。  <b>以上、登録したデータの授業での活用を着実にを行い、大学院での応用研究を実施した。また、事業協働機関との調査事業を踏まえて、観光サイクリストの位置情報を取得する事業提案を行った。これらのことから、「a」と評価した。</b>	取組2 ⑦・⑧について  A (3.8)
	⑮	<b>【データの閲覧開始】</b> 4月～3月 参加校・企業・自治体に対するデータベースの閲覧を引き続き実施。また、次年度以降の運用継続に伴い現在のクラウド運用から学内の新規サーバーへ移行する。	b 平成 29 年度に観光関連データベースの利用マニュアルや利用規定を策定し、平成 30 年度から事業協働機関向けのユーザ ID/Pass を配布して閲覧を開始し、令和元年度も引き続き事業協働機関からの照会等に対応した。 事業終了後も継続して教育研究活動に活用するため、学内の情報科学部サーバーに移行し、管理を引き継いだ。  <b>以上、計画どおりに実施したことから「b」と評価した。</b>	



	<p>⑫ <b>【参加校による協働研究事業】</b></p> <p>4月～3月 参加校による協働研究事業を実施する。</p>	b	<p>参加校の学部構成や教育方針のもとに、COC+の対象地域において、多くの学生が地域活動に参加する教育研究事業を実施し、地域志向マインドの醸成に努めた。</p> <p>以下、校名/地域/テーマ/実施内容。</p> <p>①広島大学/呉市/コンテンツツーリズムを活用した地域活性化/観光客アンケート、行政施策調査、企業への経済効果測定</p> <p>②尾道市立大学/尾道市/アートプロジェクト(空き家再生)の実施/空き家を活用した地域デザインと展示(広島市立大学と協働)</p> <p>③広島経済大学/廿日市市、呉市等/学生による観光資源等の再発見と発信/宮島の魅力を発信、朝鮮通信使をテーマに日韓学生交流、瀬戸内海の戦跡地をマップにしたダークツーリズムの提案</p> <p>④広島工業大学/廿日市市/宮島土曜講座/宮島のまちづくり、観光、地域課題解決等の市民講座の開催(広島市立大学と協働)</p> <p>⑤広島国際大学/安芸太田町・呉市/中山間地域と島しょ部との交流による地域活性化プロジェクト/中山間地域での住民サロンによる地域支援</p> <p>⑥広島修道大学/広島市、北広島町、岩国市/基町プロジェクト「もとまちカフェ」・地域と連携した教育/基町地区の内外をつなぐ交流活動(広島市立大学と協働)、PBL「ひろしま未来協創プロジェクト」の実施</p> <p>⑦安田女子大学/北広島町、広島市/筏津プロジェクト、グローバルキッチンプロジェクト/地域の健康促進の場をつくる食文化交流(広島市立大学と協働)</p> <p>⑧広島商船高等専門学校/大崎上島町/高齢者健康調査/地域住民の健康調査やスポーツ交流による地域支援</p> <p>計画どおり実施したことから、「b」と評価した。</p>	
	<p>⑬ <b>【参加校との合同発表会の実施】</b></p> <p>12月 観光に関する学生の研究・活動発表会を実施する。</p>	a	<p>学生の観光に関する学習・研究意欲を高め、地域志向マインドやネットワークの醸成を図るため、6大学が合同で実施した。観光に関連する学生の研究や活動に関する広島地域では唯一の大学間交流事業となっている。</p> <p>開催日は令和元年12月7日。会場は広島市西区民文化センター。参加した学生は56名、教員は19名。発表されたテーマは10件。内容は地域資源と観光について3テーマ、観光と経済効果について3テーマ、宮島のまちづくりについて4テーマであり、各大学とも、地域への関わり方や分析、考察の方法に特徴があり、多彩なプレゼンテーションが行われた。</p> <p>参加学生のアンケートとして、85%が「他大学との交流により学習・研究上の刺激を受けた」、96%が「広島地域の関心を高めた」と回答した。発表内容の記録集を作成した。</p> <p>また、この事業の令和2年度以降の取り扱いについて協議を行い、継続して実施することで合意した。</p> <p>観光をテーマに充実した教育研究交流を実施し、参加学生の地域への関心を高めたこと、令和2年度以降の開催の継続を調整したことから、「a」と評価した。</p>	
	<p>⑭ <b>【サテライト講座の実施】</b></p> <p>9月～12月 参加自治体と協働して山口県柳井市でサテライト講座を実施する。</p>	b	<p>事業協働地域の若い世代の地元への定着を図る対策の一つとして、高校生の地域内への進学を促し、ひいては地域内での就職につながる事業として、サテライト講座を柳井市と協働して実施した。対象は柳井広域圏1市4町の7校の高校生と保護者で、参加者は44名。講座は3回開催し、広島市立大学の教員が担当した(内容は、まちの魅力を伝えるデザイン、食の多様性の認識、コンピュータによる生命現象の解析)。</p> <p>併せて、広島地域に所在する各大学の説明・紹介を行い、地域内進学を促した。アンケートでは、84%が講座の内容を良かったと回答し、100%が大学選択の参考になったと答えた。</p> <p>計画どおり実施したことから、「b」と評価した。</p>	



R 元年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価	
		記号	評価理由等	記号(SABCD)	
取組4 事業運営 (実施体制の整備等)	事項 ⑮	【ニュースレターとホームページによる広報】 9月・3月 ニュースレターを発行(2回)する。 4月～3月 ホームページを更新し情報提供に努める。	b	ニュースレターは、第11号と第12号の合併号を、A4版8ページで令和2年1月に発行し、配布した(3000部)。5年間の実績を取りまとめた内容とし、各事業項目のデータや写真、プロジェクトマップなどで構成した成果パンフレットとして編集した。 また、事業活動の紹介として大学広報誌やパブリシティを活用するとともに、COC+の専用ホームページを随時更新し情報提供に努めた。  ほぼ計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	取組4 ⑮～⑲について  A  (4.0)
	⑯	【協働協議会の開催と事業報告書】 1月 COC+事業協働協議会を開催する(1回)。 1月～3月 「平成28年度～令和元年度アートプロジェクト冊子」及び「平成27年度～令和元年度COC+事業報告書」を作成する。”	a	事業協働協議会の会議を、令和2年1月31日に広島市総合福祉会館において開催した。協議内容は、COC+事業実績について、及び、COC+事業終了後の方針についてであり、事業の総括的な成果報告と補助期間終了後の取組方針について説明を行い、協議の上、承認された。参加は23の協働機関から45名であった。平成28年度から令和元年度までのアートプロジェクトの報告書、及び平成27年度から令和元年度までの事業報告書を作成した。  協働協議会の会議を開催し、事業の総括報告を行い、終了後の方針について了承を得たことから、「a」と評価した。	
	⑰	【COC+フォーラムの開催】 1月 参加校・企業・自治体に呼びかけCOC+フォーラムを開催する(1回)。	a	COC+最終フォーラムを、令和2年1月31日に広島市総合福祉センターにおいて開催した。テーマは「広島圏域で観光のダイナミズムをどう受け止めるか」とし、今後のインバウンド観光をめぐる、都市空間の魅力化や滞在強化などについて、広島の観光学担当の特任教授や岐阜大学COC+参加校である名古屋学院大学教授、広島市担当局長を交えた議論を行った。併せてCOC+の観光関連の活動成果と観光行動のデータ分析の報告を行った。参加者は自治体、観光事業者、大学、一般市民など90名。アンケートでは、96%の参加者が満足度が高いと回答した。  最終フォーラムを開催し、今後の観光振興に関する討論や活動成果等を内容とし、参加者の満足度も高かったことから、「a」と評価した。	
	⑱	【担当する教員等の雇用】 4月～3月 事業の調整、実施、進行管理にあたるCOC+を担当する教員6名を継続雇用する。	b	引き続きCOC+推進コーディネーター(特任教授)1名、教育研究担当特任教授1名、事業協働地域調整担当特任准教授1名、教育研究担当特任助教1名、観光関連データベース担当特任助教1名、アートプロジェクト担当特任助教1名を雇用し、全体で6名の体制で事業を推進した。  計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	
	⑲	【評価委員会による評価の実施】 6月 COC+外部評価委員会を開催し、平成30年度事業の評価と評価報告書を作成する。 3月 COC+外部評価委員会を開催し、令和元年度事業の評価と評価報告書を作成する。	b	COC+外部評価委員会を令和元年7月5日に開催し、平成30年度事業の評価を行った。その結果、『各事業項目を安定的、発展的に実施するとともに、事業の重要な柱である「教育カリキュラムの整備・推進」において、地域貢献特定プログラムに一定の成果を上げるとともに、キャリア教育の見直しに着手し、事業期間終了後の継続への基礎固めが行えたものと評価する』として、総合評価は「A 計画を上回った実績を挙げている」とされた。また、平成30年度の事業報告書を作成し、外部評価委員会に提出した。 令和元年度事業の外部評価については、令和2年3月30日に委員会の開催を準備していたが、新型コロナウイルスの影響により延期し、令和2年度の早期に実施する。  令和元年度の事業評価は新型コロナウイルスの影響で延期となったが、平成30年度の事業評価は、計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	

	<p>⑳ 【補助期間終了後の継続計画】</p> <p>4月～3月 次年度以降の継続に向けた検討を行う。</p>	<p>S</p> <p>補助期間終了後の継続計画を次のとおり作成した。(記号の◎は拡充継続、○は維持継続、■は終了を示す。)</p> <p>以下、事業項目/記号/説明。</p> <p>【地域志向教育カリキュラム】</p> <p>(1)地域貢献特定プログラム/◎/科目構成を見直し単位修得認定者の増加を図る。新たに「地域志向教育特別委員会」を設置し検討する。</p> <p>(2)単位互換/○/科目の大部分について(一社)教育ネットワーク中国の運営する単位互換事業に移行する。</p> <p>(3)寄付講座/◎/現在1講座を2講座にする。</p> <p>(4)研修会/○/地域志向教育等のFD・SD研修として実施する。</p> <p>【観光関連データベース】</p> <p>(5)データの活用/○/データの管理を情報科学部に移管し教育研究に活用する。</p> <p>【アートプロジェクト等の教育研究事業】</p> <p>(6)アートプロジェクト/◎/芸術学部において「地域展開型芸術プロジェクト」として担当教員等を2名配置し実践的な教育を推進する。</p> <p>(7)基町プロジェクト/◎/施設の運営を継続し、全学的な活用を目指して地域課題に取り組む。新たに教員1名を配置する。</p> <p>(8)サテライトハウス宮島/■/運営を終了する。</p> <p>(9)参加校の教育研究事業/○/参加8校のうち4校が事業を継続する。</p> <p>(10)大学連携による観光研究・活動発表会/○/参加大学・教員の持ち回りにより開催を継続する。</p> <p>(11)特色研究等/○/特色研究、社会連携プロジェクト、市大生チャレンジ事業のいずれも、地域に関する事業について学内公募を継続する。</p> <p>(12)サテライト講座/■/柳井広域圏での講座開催を終了する。</p> <p>【インターンシップ】</p> <p>(13)インターンシップの実施/○/地元企業へのインターンシップを引き続き促進する。</p> <p>(14)キャリア教育/◎/見直しを行ったキャリア形成支援科目に新たな科目を追加して強化する。</p> <p>【事業運営等】</p> <p>(15)事業協働協議会/■/組織としては終了するが、広島広域都市圏の市町とは地域演習などの個別の事業を通じた関係を継続する。</p> <p>(16)学内運営組織/○/新たに「地域志向教育特別委員会」を設けるほか、既存の学内委員会において継承する。地域貢献人材育成等を所掌する「総合教育センター(仮称)」の設置を検討する。</p> <p>担当する人員について、現行の教員6名体制から、教員4名・事務職員1名の体制に移行し継続する。</p> <p>(17)フォーラムの開催/■/終了する。</p> <p>(18)広報活動/○/COC+の実績等を大学ホームページに掲載する。</p> <p>(19)外部評価と事業報告/■/終了する。</p> <p>(20)資金的な継続/○/継続する事業に必要な人員の雇用、及び事業の実施に係る経費について、基本的には本学の自己財源を充当する。</p> <p>補助期間終了後の方針について検討を行い、継続計画を作成した。</p> <p>検討した事業20項目のうち、拡充して継続するもの5項目、維持して継続するもの10項目、終了すもの(必然的に終えるものを含む)5項目としており、主要な事業の大部分を継続することとしたことから「s」と評価した。</p>	
--	---	--	--